

HAPS
HIGASHIYAMA
ARTISTS
PLACEMENT
SERVICE

事業報告書 2022年度

HAPS ANNUAL REPORT 2022 HAPS 事業報告書 2022年度

HAPS



HIGASHIYAMA
ARTISTS
PLACEMENT
SERVICE

ANNUAL
REPORT

2022

339 YAMAZAKI-CHO, HIGASHIYAMA-KU, KYOTO 605-0841, JAPAN

T 075 525 7525 F 075 525 7522

EMAIL info@haps-kyoto.com http://haps-kyoto.com

Access



HAPS

事業報告書 2022年度



2022年度はHAPSの新たな挑戦の一年だった。新たに、文化庁事業として「障害者等による文化芸術活動推進事業」を受託し、さまざまな企画を展開した。レクチャー、勉強会、展覧会、調査、アーカイヴィングなど多様な芸術実践を幅広く手がけることが出来るのがHAPSのようなアート・インスティテューションの強みでもあり、まさにHAPSがなすべき社会的役割を存分に発揮できたと感じている。

世界に目を向けるとコロナの影響が後を引き、ウクライナ戦争が

世界に暗い影を投げかけている。美術ひいては芸術も大きな変革期にあるだろう。HAPSが担うべきミッションも時代に合わせて変容させる必要があるはずだ。柔軟に大胆に、今後もHAPSは芸術のポテンシャルを未来へと繋げるために邁進していきたい。皆様の温かいご支援とご協力を是れともよろしく申し上げます。

遠藤水城 (えんどう みずき / HAPS 実行委員長)



HAPS とは

東山 アーティスト・プレイズメント・サービス(HAPS)は、
芸術家と芸術を支える人のためのよろず相談所です。

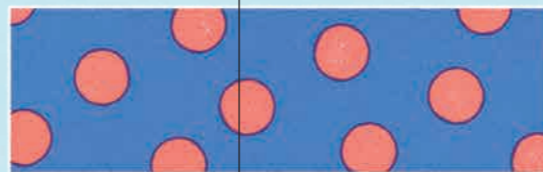
HAPSは若手アーティストが京都市内に居住し、活動し続けることができる環境を整えるために、居住・制作・発表、仕事コーディネートなどの包括的な支援活動をおこなう組織です。2017年からはこうした取り組みを広げ、文化芸術の力を活用して、多様な背景を持つ人々が共に生きることのできる社会のあり方を探り、その仕組みづくりを目指す事業(「文化芸術による共生社会実現のための基盤づくり事業」)を実施しています。また本年度は、「障害者等による文化芸術活動推進事業」を文化庁より受託し、「公立美術館における障害者等による文化芸術活動を促進させるためのコア人材のコミュニティ形成を軸とした基盤づくり事業」にも取り組みました。

ミッション MISSION

この困難な時代に生きる芸術家たちを支えること。それは、「美術」という一つのジャンルを守るのではなく、私たちの社会全体の豊かさを維持し、さらに新しい可能性を開いていくことに繋がります。多くの芸術家がそこに住まい、生活している街。あるいは逆に、そこで暮らしている人間が芸術家になりうる、芸術家でありうる街。切実な表現、独創的な作品、かけがえのない営為が多くの人に見られ、共有されている街。HAPSは、個人の生き方と社会のあり方を組み替え、文化芸術が最大限のポテンシャルを発揮できる環境を京都市に作り出すことを、その目標としています。

沿革 HISTORY

- | | |
|---|--|
| 2007年 京都市「京都文化芸術都市創生計画」の策定、「若手芸術家等の居住・制作・発表の場づくり」事業の計画 | 2019年 「東山 アーティスト・プレイズメント・サービス(HAPS) 実行委員会」事務局を法人化し、一般社団法人 HAPSを設立 |
| 2009年 「若手芸術家等の居住・制作・発表の場づくり」事業の調査を開始 | 2020年 HAPS HOUSEを南区東九条にオープン、「Social Work / Art Conference」開設 |
| 2011年 「東山 アーティスト・プレイズメント・サービス(HAPS) 実行委員会」設立。HAPS オフィスを東山区六原にオープン | 2021年 HAPS制作スタジオを北区の「ふれあい共生館」へ移転 |
| 2012年 HAPS制作スタジオ(元新道小学校)使用開始 | 2022年 「公立美術館における障害者等による文化芸術活動を促進させるためのコア人材のコミュニティ形成を軸とした基盤づくり事業」受託 |
| 2018年 「文化芸術による共生社会実現のための基盤づくり事業」開始 | |



HAPS

ABOUT

HAPSの組織 ORGANIZATION

東山 アーティスト・プレイズメント・サービス(HAPS) 実行委員会

HAPSの事業実施における方針決定機関として、定期的に行う実行委員会を行い、予算の使途や事業の内容を協議、決定します。実行委員長はキュレーターの遠藤水城。実行委員メンバーは京都市の芸術系大学の教員、地域活動の担い手、美術の専門家などで構成されています。

一般社団法人 HAPS

2019年に実行委員会の事務局を発展させて設立された法人です。芸術家支援活動の実施主体として、実行委員会で決定された方向性に基づき事業実施の実務を担います。また、芸術家と芸術を支える人のための相談窓口として、随時相談を受け付けています。

HAPSの拠点 LOCATIONS

HAPS オフィス

芸術家と芸術に関わる人の基本の相談窓口として、また展示スペース、イベントスペース、事務所として機能しています。HAPS オフィスは、祇園の南側にある閑静な住宅街、京都市東山区の六原学区に位置します。やきものが盛んで、多くの職人が現在も制作を続けています。この学区は古くから住む人々によってふれあいのあふれる街である一方、高齢化が進み、空き家が増加しているなどの問題があり、それを解決するための活動も活発にされています。HAPSはそういった活動の一部の役割も担っています。

〒605-0841 京都市東山区大和太路通五条上る山崎町339 日・月・祝休 電話：075-525-7525



HAPS HOUSE

主に「Social Work / Art Conference」の拠点として、相談窓口や交流の場所としての役割を担っています。また展示スペース、レジデンスとしての機能も有しています。HAPS HOUSEは、京都駅の南側、南区東九条に位置します。多様な文化が息づきながらも、人口の減少や隣接する崇仁地区への京都市立芸術大学移転がせまり、大きく環境を変えようとしている街で、新たな表現が誕生する場としてこれからも歩んでいきます。

〒601-8004 京都市南区東九条東山王町1 日・月・祝休 電話：075-748-8575



HAPS スタジオ

初代のスタジオは、2012年から東山区の元新道小学校6教室を利用して運営していました。これまで16組のアーティストがスタジオを使用し、国内外で活躍する才能を多数輩出してきました。現在は、北区の元楽只小学校を利用した複合施設「ふれあい共生館」内の6教室を利用して、アーティストに制作の場所を提供しています。スタジオの利用者は公募によって決定され、アーティストは最長3年、広い空間を利用して制作に集中することができます。

〒603-8226 京都市北区紫野西舟岡町2 ふれあい共生館 北館2・3階



HAPSの事業展開

HAPSの事業は、相談から生まれています。
さまざまな立場の方からの相談や、社会や地域の課題をきっかけに、多様な支援事業へと展開しています。



物件マッチング

京都市で活動するアーティストに空き物件を、大家さんには入居希望のアーティストをマッチングします。制作・居住環境を探すアーティストの希望と、借り手を探す大家さんからの物件情報を集約し、両者をつなぎます。

相談のスキーム

困りごとを抱えているアーティスト、空き家の大家さん、日頃の活動に芸術を取り入れたい方など、多様な立場の方からの相談を対面またはオンライン、メールなどで随時受け付けています。相談の内容に応じて、HAPSの展開している事業による支援や、専門の窓口への紹介を行い、それぞれに最適な解決方法やマッチングをご提案します。



情報提供

→P.06

HAPSのウェブサイトは、相談の窓口であることはもちろん、京都市内の展覧会情報、シェアスタジオの紹介、公募情報の掲載など、アートに関わる、アートに関心のあるあらゆる人のための情報を提供しています。

相談例 公募情報が知りたい／自分の展示について
広く告知したい

相談例 子どもたちに多様な将来像を知ってほしい／
地域とその歴史にアートの視点でアプローチ
したい



地域との連携・協働

HAPSの拠点は京都市内に3箇所。それぞれが独自の機能を持ち、その地域との顔の見える関係を大切にしています。年間行事への参加やイベントコーディネートなど、コミュニティの発展に寄与することを目指します。



→P.08

HAPSスタジオ

元小学校を活用した複合施設「ふれあい共生館」内の6教室をスタジオとして若手アーティストに提供しています。アーティストは公募によって選定され、これまでに国内外で活躍する人材を多数輩出しています。

相談例 複数のアーティストで物件を活用してほしい
／不動産業者に出しても借り手のつかない
物件がある



→P.11

芸術家×仕事

HAPSがこれまでに培ってきたアーティストや専門家とのネットワークを活かし、アーティストと仕事を依頼したい方とのマッチングを行っています。互いの要望に基づき、協働の可能性をご提案します。

相談例 理系学生に公務員の魅力を発信したい
／マンションの展示スペースを若手芸術家に提供したい

相談例 集中して制作に取り組める
スペースがほしい



キュレーター招聘

京都を拠点に活動するアーティストを広くシーンに紹介し、京都のアーティストには最先端のアートシーンを知ってもらうため、国内外よりキュレーターを招聘し、スタジオ訪問やトークなどのプログラムを実施します。

相談例 自分の作品を専門家に見てほしい
／京都でどのような作家が活動しているのか知りたい

KYOTO CITY



→P.13

共生社会の実現に向けた取り組み

多様な背景をもつ人々が共に生きやすい社会の実現を目指し、芸術の特性を活かした様々な取り組みを実施しています。芸術が社会の状況へどうアプローチし、力を発揮できるかを考えています。

相談例 アクセシビリティについて相談したい／福祉
支援施設でアート活動を提供したい



NEW

→P.22

障害者等による文化芸術活動推進事業

2022年度、文化庁より「公立美術館における障害者等による文化芸術活動を促進させるためのコア人材のコミュニティ形成を軸とした基盤づくり事業」を受託。公立美術館の学芸員などが参加する「カンファレンス」、日本の公立美術館を訪問インタビュー調査を行った「リサーチ」、パイロット事業として展覧会「私はなぜ古谷渉を選んだのか」、人材インベストメント事業として「もぞもぞする現場」を実施しました。

¥



NEW

→P.20

アート市場の活性化

オンラインマーケットプレイスに「HAPS KYOTO」として出展。京都の作家と作品の紹介・販売を行っています。若手から中堅まで、性別を問わず、障害の有無を問わず、美術／工芸やハイアート／サブカルチャーなどの垣根を超えて、「多様な表現」のあり方を守り、発展させることを目指します。

NEW TOPICS

TOPICS 01

HAPSのウェブサイト进行全面リニューアル!

HAPSは設立当初から、ウェブサイトを通じて様々な相談を受け付けると共に、アートに関わる、アートに興味があるあらゆる人のための情報を提供してきました。そんなHAPSのウェブサイトがこの度リニューアルします。これまでの相談窓口としての機能、アートに関わる人のための情報発信機能はそのままに、HAPSが主催する各種事業のニュースやアーカイブを強化し、私たちの仕事についてより深く理解いただけるようになります。これからも様々な方からのよろず相談を受け付け、直面している課題を解決する第一歩としての機能を果たしていきながら、新たなHAPSの「顔」として歩んでいきます。

またこれまで芸術と社会の関係を実験的に考察してきたウェブマガジン「HAPS PRESS」はアーカイブとして保存されます。



HAPS WEB
<https://haps-kyoto.com>

TOPICS 02

本年度は、HAPSの新たな拠点となった 楽只地域において 新たな交流や取り組みが生まれました。



楽只児童館の子どもたちによるスタジオ見学
 HAPSスタジオの入る「ふれあい共生館」に同居する楽只児童館に通う子どもたちを対象に、アーティストの話を聞き、スタジオを訪れる会を行いました。アーティストを代表して小林椋によるレクチャーを行い、自身の子ども時代を振り返りながら活動の原点についてお話しいただきました。その後は子どもたちがアーティストのスタジオを訪問し、それぞれの制作について説明を受けたり、体験したりしました。



三枝愛(馬歩)による紙屋川のリサーチ
 三枝愛は、紙屋川(現在の天神川)でかつてつくられていた和紙のリサーチを進めています。本年度は楽只児童館の子どもたちと共に川歩きを実施。その様子を木版画にするワークショップも実施しました。3月にはその成果をオープンスタジオとして公開。来年度以降も地域住民と共同で、紙漉きの実現に向けた取り組みを継続していく予定です。



夏祭りの様子

HAPS NEW TOPICS



PHOTO by KAORI YAMANE



主催事業

HAPS スタジオ

京都を拠点に活動していく美術系アーティストのために、元小学校の教室を利用した制作スタジオを運営、提供しています。現在は元うし楽只小学校(京都市北区)を活用した複合施設「ふれあい共生館」内の6室をスタジオとして活用中です。

—
元小学校の教室で、
制作に励む。

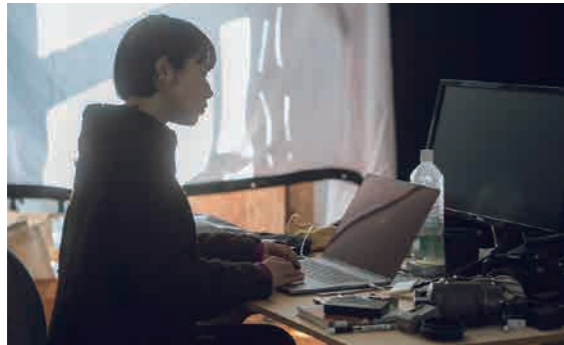
アーティストは最長3年間、優れた環境で制作に集中することができます。2022年度は新たに1教室の公募を行い、八幡亜樹さんがHAPSスタジオアーティストとして使用を開始しました。

スタジオユーザー紹介

NEW
USER

八幡亜樹(やはた あき)

1985年東京生まれ、北海道育ち。2008年、東京藝術大学美術学部先端芸術表現科卒業。2010年、東京藝術大学大学院美術研究科先端芸術表現専攻修士課程修了。現在、京都市在住。近年は主に「辺境」とそこに紐づくテーマに着目し、リサーチに基づいた映像インスタレーション作品を中心に展開している。



VOICE



八幡亜樹さん

HAPSスタジオの制作環境の良さはずば抜けており、スタッフの皆さんも、制作というものを真摯に受け止めてサポートしていただき、本当に助けていただいております。教室ひとつという広さは、新作の個展をある程度再現することもできるくらい十分なスペースで、3面スクリーンのシミュレーションをしたり、インスタレーションとして空間構成を考えたい時に、まさにイメージのままのサイズ感で展開できることが本当にストレスレスで、贅沢な環境だなと痛感しています。制作の合間に、他の作家と近況を話す機会があるのも楽しいです。物理的にも可能性を広げてくれるこの充実した制作環境を存分に使い、実験的な試みもたくさんしていきたいと思っています。



スタジオユーザー紹介

USER 01

禹歩(うほ)

島貫泰介(しまぬき たいすけ)、振子びじん(ねじびじん)、三枝愛(みえだ あい)によるユニット。2019年より『アンティゴネー(仮)』制作に向けた、葬送儀礼・墓跡と大逆事件関連史跡リサーチと実践のためのプロジェクトとして活動。リサーチの過程で新たに会った事物をリサーチや作品制作のための要素とすることで、拡張的な活動を展開している。



城崎国際アートセンターでのパフォーマンス風景



USER 02

小林椋(こばやし むく)

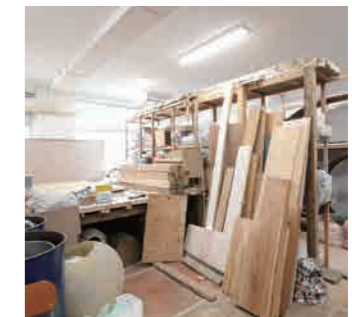
1992年東京都生まれ。2017年多摩美術大学大学院修士課程情報デザイン領域修了。2019年京都市立芸術大学大学院修士課程彫刻専攻修了。時里充とのユニット「正直」などでライブ活動も行う。



USER 03

ヒスロム+和田寛司(わだ かんじ)

ヒスロム：加藤至(かとう いたる)、星野文紀(ほしの ふみのり)、吉田祐(よしだ ゆう)によるユニット。2009年より活動開始。造成地の探検で得た体験や違和感を表現の根幹に置き、身体を用いて土地を体験的に知るための遊び「フィールドプレイ」を各地で実践、映像や写真、パフォーマンス作品としてあらかず。
和田寛司：1986年京都市生まれ。2008年KASD卒業。2010-2013年一級建築士事務所アルファヴィル。2013年建築設計事務所ランチ!アーキテツツ設立。建築家。怪談蒐集家。





スタジオ使用者紹介

USER 04

宮木亜菜 (みやき あな)

1993年大阪府生まれ。2016年にロンドンのロイヤル・カレッジ・オブ・アート パフォーマンス専攻に交換留学。2018年京都市立芸術大学大学院修士課程美術研究科彫刻専攻修了。自身が作品の一部となって展示空間に滞在するインスタレーションや、パフォーマンスの形式で作品を発表する。身体を取り巻く力の諸関係の中で自分自身の力を健康的に展開させていく。



photo: 前谷開



USER 05

本山ゆかり (もとやま ゆかり)

1992年愛知県生まれ。2015年愛知県立芸術大学美術学部美術科油画専攻卒業、2017年京都市立芸術大学大学院美術研究科美術専攻(油画)修了。ローブ・アクリル板・布など従来の絵画とは異なる素材を用いて、絵画とは何かを探求する作品を制作している。



元楽只小学校跡地を活用した複合施設

(愛称：ふれあい共生館)とは

京都市では、楽只小学校と紫野小学校の統合に伴い、2019年3月に閉校した元楽只小学校の跡地活用について、「子育て・人権・文化芸術の拠点」として、複合施設を整備することとしました。楽只学区全体のまちづくりの観点から、北いきいき市民活動センター、ツラッティ千本、京都市楽只児童館、京都市楽只保育所を移転整備するとともに、元新道小学校から、HAPSスタジオおよび天才アートKYOTO アトリエが移転し、「ふれあい共生館」として開設する運びとなりました。



主催事業

芸術家× 仕事コーディネート事業

—
芸術家だからこそ、
できることがある。

あらゆる人からの「仕事」の相談と、芸術家のクリエイションの手法・視点が入ることにより、新たな魅力を持ったものが生まれ、新たなものを生みだすお手伝いをいたします。アートの手法・視点が入ることにより、新たな魅力を持ったものが生まれます。

仕事を依頼したい方

ウェブサイトの「相談・お問い合わせページ」から「相談したい」フォームに進み、依頼したい内容、契約形態・報酬などを具体的に登録してください。内容をHAPSで審査した上でアーティストに仕事情報を提供します。

依頼を受けたいアーティスト

ウェブサイトの「依頼を受けたいアーティスト」のバナーから「アーティスト情報登録フォーム」に進み、自身の活動のジャンル、プロフィール、作品の概要や活動歴を登録してください。HAPSが仕事の情報提供を受け、該当する情報をお知らせします。実際に仕事を受ける際には、依頼者に直接申込をしていただきます。

2022年度にマッチングした事例

- ・男女共同参画データブックの制作
- ・書籍装画制作
- ・京都文学賞中高生部門の最優秀賞作品装画制作
- ・京都市技術職紹介動画の制作
- ・マンションモデルルームへの作品設置

情報提供の流れ

- 1 HAPSがアーティストの特性を活かせる仕事情報の掘り起こしを行う
- 2 依頼者がHAPSに仕事の情報を提供
- 3 HAPSが仕事内容を確認・審査
- 4 仕事の内容と条件をもとに、HAPSからアーティストに仕事情報を提供
- 5 アーティストが依頼主に直接申込を行う



今年度に実現した事例 01

京都一周トレイルのリニューアル アートディレクションのマッチング

京都の自然、歴史、文化を巡るハイキングコース「京都一周トレイル®」のコースの維持補修や道標整備等を担ってきた「京都一周トレイル会」の発足30年にあたり、京都一周トレイル®公式ガイドマップの改訂が行われました。アートディレクションを中家寿之さんに担当いただき、マップを全5コースの特徴をコンセプトとしたデザインに一新。ロゴマークも制作されました。



VOICE



山崎雄亮さん
京都一周トレイル会事務局(京都市産業観光局MICE推進室)

2023年に30周年の節目を迎える「京都一周トレイル」の記念事業として、新たなロゴのデザインと公式ガイドマップの新たなデザインの監修をご紹介いただいた中家寿之さんをお願いしました。ロゴには、トレイルからの京都のまちの眺めを形に、1年を通して楽しむことができ、自然と市街地がすぐそばにある、京都ならではの特色を表現いただきました。また、マップにはコース毎の山の稜線がデザインされ、5冊集めて飾りたくなるような仕上がりとなりました。アーティストの方との協業は今回が初めての取組であり、不安もありましたが、イメージの固まらない我々に対して、事業の内容なども含めヒアリングをしていただき、案を複数提示いただくなど、本当に丁寧な対応をしていただき、大変心強かったです。

今年度を実現した事例 02

京都文学賞第3回中高生部門最優秀作 『ちとせ』の装画制作

第3回京都文学賞(令和3年度)において、中高生部門で最優秀賞を受賞した『闇に浮かぶ浄土』(高野知宙著)が、『ちとせ』に改題の上11月に刊行されました。HAPSは書籍の装画を日本画家・福田季生さん(令和2年度京都市芸術新人賞受賞)に制作いただきました。

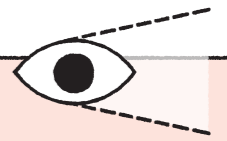


VOICE



高野知宙さん
『ちとせ』著者

京都文学賞を受賞し単行本化するにあたり、京都文学賞事務局から、表紙に京都のアーティストを起用してはと提案されました。福田さんの描く静かで美しい日本女性に惹かれ、HAPSさんを通してお願いしました。自分の頭の中のイメージが文章を介し他の人にどう伝わるのか気になっていましたが、福田さんのちとせを見て、可愛らしさと大人らしさの同居するイメージが共有できたようで嬉しかったです。このご縁に感謝しつつ、素敵な表紙を通して多くの方がちとせに出会ってくれることを願っています。



主催事業

文化芸術による共生社会実現に 向けた基盤づくり事業

HAPSはこれまで京都市より2017年度「文化芸術で人が輝く社会づくりモデル事業」、2018年度「文化芸術による共生社会実現のための基盤づくり事業」を受託し、実施しました。これらの事業は、文化芸術の力を活用して、多様な背景をもつ人々が、共に生きることのできる社会のあり方を探り、その仕組みづくりを目指すものです。2019年度からは、上記の事業成果を引き継ぎ、「文化芸術による共生社会実現に向けた基盤づくり事業」(企画監修:中川眞)として、HAPSの主催事業として展開しています。

2022年度は、前年度までの取り組みを引き継ぎ、京都駅周辺の崇仁・東九条地域を含むエリアにおいて、場所の歴

—
アートの力で
社会課題に向き合う。

史や現在の状況に呼応するように多様な立場から複数名で芸術実践を重ねている人々と協働し、その動きを下支えすることをモデル事業「離れられない大切な場所でも生きていくために」と題して実施しました。

相談事業である「Social Work / Art Conference(SW/AC)」は、昨年度に続き談話室・勉強会のほか、ディレクターの奥山によるシンポジウム登壇などのアウトリーチ活動を実施。アトリエみつしま企画展「まなざす身体」、出展者の白鳥健二さんの滞在と制作にも協力しました。

また普及啓発として、京都精華大学との共同開講による公開講座『ホルムアルデヒド・トリップ』作品上映+関連レクチャーをオンラインで開催しました。

講座

京都精華大学公開講座 『ホルムアルデヒド・トリップ』 作品上映+関連レクチャー

メキシコを拠点とするナオミ・リンコン・ガヤルドは自身のことを「グローバル・サウス出身の、有色のクィア、脱植民地のフェミニスト、ビジュアルアーティスト、抜け目のない研究者」と語ります。その作品は、人種・民族・ジェンダー・セクシュアリティ・階級といった様々な権力関係の交差によって強いられた個人や集団への抑圧に、多様な性やジェンダー表現、喜び、憤り、祝福をもって対抗し、別のかたちの世界へと転換する欲望と活力を煽ります。本プログラムでは、ネオコロニアリズムや女性への暴力等をテーマとする作品『ホルムアルデヒド・トリップ』のオンライン上映と、作品の背景に触れるレクチャーを行いました。

日時: 2023年2月17日(金)18:30-22:00

受講方法: YouTube配信(参加無料)

講師: 菅野優香(同志社大学大学院グローバル・スタディーズ研究科教員) / ほんまなほ(大阪大学COデザインセンター教授) / ナオミ・リンコン・ガヤルド(アーティスト※作品上映のみ)

主催: 京都精華大学

共催: 京都市 / 公益財団法人世界人権問題研究センター / 一般社団法人HAPS

[共同開講] 京都精華大学 マイノリティの権利、特にSOGIをはじめとした<性の多様性>に関する知識と、それらを踏まえた表現倫理のリテラシーを備えたアートマネジメント人材育成プログラム「#わたしが好きになる人は / The_people_I_love_are」(令和4年度文化庁大学における文化芸術推進事業) 事業監修: 山田創平

プロジェクトコーディネーター: 内山幸子



Naomi Rincon Gallardo, The Formaldehyde Trip, 2016 (still); photo: Fabiola Torres Alzaga

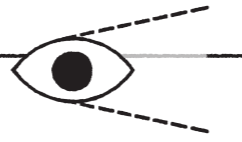
第1部 レクチャー 18:30-20:50

「サバイバルの戦略——クィア・オブ・カラーとパフォーマンス」講師: 菅野優香
「ことばに、ふれる、グロリア・アンサルドゥーア」講師: ほんまなほ

第2部 作品上映 21:00-22:00

ナオミ・リンコン・ガヤルド『ホルムアルデヒド・トリップ』

*字幕: 日本語・英語 / オーディオ言語: スペイン語・英語・ドイツ語



モデル事業

「離れられない大切な場所とともに生きていくために」

「多様な人と人がともに生きていく」「世界の中で、人や、人だけでない様々なものがともに生きていく」在り方を、表現を通してアーティストとともに模索し、6年目を迎えるモデル事業。2022年度は、京都市立芸術大学の移転や新たなミュージアムの建設などを控え、まちが大きく変化している崇仁・東九条地域において、場所の歴史や現在の状況に呼応するように多様な立場から複数名で芸術実践を重ねている人々と協働し、下支えする試みを行いました。

年度末には1年間の取り組みを振り返り、未来に向けた芸術実践や共生の在り方を探る試みとして、報告会を実施。実践の報告・クロストーク・交流会などを行い、取り組みを共有しました。様々な観点から実践を通して共生のあり方を思考し、「アート」と「共生」にまつわる芸術実践のあり方の拡張可能性を模索しました。

実践の紹介①

東九条 空の下写真展実行委員会

東九条 空の下写真展実行委員会は、東九条で暮らす・働く・動く有志による団体です。地域の写真の収集・展示を通じて、記憶や歴史、文化を継承しながら、新しい表現活動の創造とその可能性を探っています。HAPSは地域住民からの写真の募集・受け取り・語りの聞き取りや、企画・運営体制の構築などに協力しました。



撮影：成田舞

制作協力など

東九条 空の下写真展

街に残る生活の息づかいを、街ゆく人々と感じられる、空の下でのオープンな写真展「東九条 空の下写真展」を開催しました。まもなく大きな整備事業と関連工事が始まり、風景が大きく変化する京都駅南部の須原通り沿い京都市有地フェンスにて、昔の写真や今の写真、まちの風景やまちに生きる人たちの生活のひとつなどをここで生きてきた(いる)個人や団体から募集し、展示する試みです。

写真展の開催期間中も写真を募集。写真を持ち寄ってもらい、その場でスタッフが話を聞き、スキャンや展示をしました。また、トークイベントでは本企画に関わった多様な立場の人が、プロセスも含め企画について共有する機会をつくりました。

会期：2022年4月17日(日)～5月22日(日)
会場：須原通り沿い空き地フェンス(八条-九条間)
主催：東九条 空の下写真展実行委員会
協力：一般社団法人HAPS / NPO法人スウィング / 京都コリアン生活センター エルファ / 希望の家(京都市地域・多文化交流ネットワークサロン) / 希望の家カトリック保育園 / 故郷の家・京都 / 山王学区自治連合会 / THEATRE E9 KYOTO / ただいも / 特定非営利活動法人東九条地域活性化センター / 日本自立生活センター(JCIL) / ノランラン / 東九条マダン / 東九条まちづくりサポートセンター(まめもやし) / 民衆文化牌ハンマダン

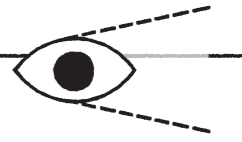
会期中イベント

・写真募集ブース | 5月8日(日)10:00～14:00
場所：東九条文庫・マダンセンター前(京都市南区東九条南河原町3)

・配信トーク | 5月14日(土)19:00～21:00
「それぞれのリアルと写真のリアルが重なるとき」
司会進行：高橋慎一(EAST NINE ZINE CIRCLE、ユニオンぼちぼち) 石井絢子(アートコーディネーター) / 大谷通高(総合地球環境学研究所) / さとう大(NPO法人 京都コリアン生活センターエルファ) / 佐藤知久(京都市立芸術大学 芸術資源研究センター 教授) / 孫片田晶(立命館大学産業社会学部現代社会学科准教授) / 中谷正人(東九条耕す計画「ただいも」) / 中村景月(京都大学大学院工学研究科建築学専攻後期博士課程) / 成田舞(フォトグラファー) / 村木美都子(東九条まちづくりサポートセンター <まめもやし>事務局) / やんそる(Books × Coffee Sol、東九条マダン、東九条耕す計画「ただいも」)ほか



・高瀬川清掃写真撤去 | 5月22日(日)10:00～終わるまで
場所：北河原公園(通称三角公園)(南区東九条北河原町)



制作協力など

東九条 空の下写真展 × 希望の家児童館 × 金サジ「なりたい自分になる!」てらんかい

8～10月にかけて3回ワークショップを開催。子どもたち自身が「なりたい自分」の姿を考え、衣装や小道具をつくり、話し合い、写真作品(写真のコンセプト)やお話をつくり、ちらしをつくり、展覧会づくりまで行いました。写真家の金サジがスタジオ機材を組んで撮影を担い、制作物は地域福祉を担ってきた「希望の家」への寄付の品々や、アーティスト・演劇関係者からの持ち寄りを主な素材とし、ワークショップ当日はさまざまな大人が子どもたちをサポートしました。

会期：2022年10月7日(金)～10月25日(火)
会場：京都市地域・多文化交流ネットワークセンター
共催・企画・制作：希望の家児童館 / 東九条 空の下写真展実行委員会
共同企画・撮影：金サジ
協力：一般社団法人HAPS



実践の紹介②

崇仁すくすくセンター実行委員会

2019-2020年度のモデル事業の一環として、アーティストの山本麻紀子が京都市立芸術大学と京都市立銅駝美術工芸高等学校移転予定地を中心に行った取り組みは、2021年度より「崇仁すくすくセンター(挿し木プロジェクト)」として実行委員会を立ち上げ、山本を中心に継続しています。これは、新たなまちづくりによって大きく変化する崇仁地域にて、まちと共にあった崇仁小学校、崇仁市営住宅、崇仁保育所などで命を育んできた樹木の挿し木を試み、地域住民とともにその成長を見守り、土地の記憶や人の繋がりを継承しながら、いずれしかるべき場所に木を地植えして返すことを目指す活動です。地域の高齢者福祉施設「崇仁デイサービスうおい」や、地域在住の人々との活動を中心に、様々な方との関わりを創りだしながら進めています。HAPSは、8月に協働でトークイベントを開催。2020年度の3つのプログラムについて、当時山本が制作した作品や、片山達貴が撮影した記録映像などを初めて公開し、企画背景や思いなどとあわせて伝え、総体的に取り組みを伝える場をつくりました。また年間を通じて、活動に関連する報告会やイベントの広報協力等を行いました。



共催

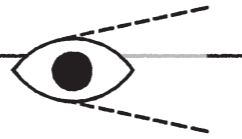
トークイベント「巨人の歯と眠り」【糸と布染め】
「崇仁すくすくセンター(挿し木プロジェクト)」

日時：2022年8月21日(日)10:30～12:00
話し手：山本麻紀子(アーティスト) / 石井絢子(一般社団法人HAPS・アートコーディネーター)
会場：京都市下京いきいき市民活動センター 3階集会室
入場料：無料
定員：40名
主催：崇仁すくすくセンター実行委員会 / 一般社団法人HAPS
助成(崇仁すくすくセンター実行委員会)：Arts Aid Kyoto

広報協力

崇仁すくすくセンター 挿し木プロジェクト 2022年度活動報告展

会期：2023年2月5日(日)～2月12日(日)
会場：京都市下京いきいき市民活動センター(うるおい館)1階ロビー
入場料：無料
主催：崇仁すくすくセンター実行委員会
共催：崇仁デイサービスうおい / 京都市下京・東部地域包括支援センター
協力：一般社団法人HAPS / 京都市下京いきいき市民活動センター / 京都市みどりクラブ / 崇仁自治連合会 / 崇仁児童館 / 崇仁発信実行委員会
助成：国土緑化推進機構「緑と水の森林ファンド」 / 下京区まちづくりサポート事業「SHIMOGYO+GOOD」令和4年度採択事業 / Arts Aid KYOTO



■ 広報協力

トーク「巨人×眠り×植物」

日時：2023年3月11日(土)14:00～16:00
 会場：GALLERY & EVENT SPACE NEUTRAL
 入場料：無料
 定員：50名
 ゲスト：重田真義／塩尻かおり
 企画：山本麻紀子(崇仁すくすくセンター)
 助成：国土緑化推進機構「緑と水の森林ファンド」／Arts Aid Kyoto
 協力：NPO法人睡眠文化研究会

■ 実践の紹介③

高瀬川モニタリング部

2021年度のモデル事業で招聘したアーティストの前田耕平による1年間の試みは、京都市内を流れる高瀬川やその流域の「生き物」たちの世界を観察し、高瀬川の昔と今、これからについて考える、前田を部長とした部活動として発展・継続しています。今年度は、年間を通じたモニタリング、地域行事や学校の授業への参加、報告会の開催や、新聞「モニタリング通信」の発行等を行い、川をめぐる多様な生き物の観察・表現方法、関わり方を模索してきました。HAPSは高瀬川モニタリング部の活動に部分的に協力し、報告会では2021年度の取り組みの記録映像なども上映されました。



■ 制作協力

高瀬川ききみる会プロデュース 高瀬川モニタリング部報告会

会期：2022年7月29日(金)～7月31日(日) 11:00～18:00
 会場：高瀬川・四季AIR
 入場料：無料
 協力：一般社団法人HAPS

会期中イベント

- ・ 座談会 7月30日(土)13:00～15:00
 ゲスト：釜屋憲彦(環世界研究者)
- ・ 入部体験会 7月30日(土)11:00～18:00
- ・ 演奏会 7月30日(土)17:00

高瀬川ききみる会プロデュース 高瀬川モニタリング部報告会 vol.2

会期：2022年9月23日(金・祝)～9月25日(日) 11:00～18:00
 会場：高瀬川・四季AIR
 入場料：無料
 協力：一般社団法人HAPS

会期中イベント

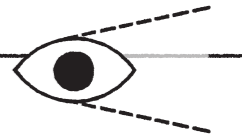
- ・ 上映会 9月23日(金・祝)～9月25日(日)
 11:30/12:00/12:30/13:00/13:30/14:00/14:30/15:00/15:30/
 16:00/16:30/17:00/17:30
 撮影・編集：中谷利明
- ・ 入部体験会 9月23日(金・祝)～9月25日(日) 11:00～18:00

高瀬川モニタリング部報告会 vol.3

日時：2023年3月10日(金)～3月12日(日)11:00～18:00
 会場：高瀬川・四季AIR
 入場料：無料
 企画：高瀬川モニタリング部企画チーム
 協力：高瀬川ききみる会／一般社団法人HAPS

会期中イベント

- ・ 座談会 3月12日(日)14:00～15:00
 ゲスト：津田和俊(京都工芸繊維大学講師、山口情報芸術センター YCAM 研究員)
- ・ 入部体験会 会期中随時
- ・ ささやかな音楽会 3月12日(日)
 出演：谷口かんな(打楽器奏者)



■ 主催

2022年度 文化芸術による共生社会実現に向けた 基盤づくり事業 モデル事業 報告会 「トークイベント 離れられない 大切な場所でも生きていくために」

2022年度のモデル事業「離れられない大切な場所でも生きていくために」の1年間の取り組みを振り返り、未来に向けた芸術実践や共生のあり方を探る試みとして、実践の報告・クロストーク・交流会を行いました。

日時：2023年3月25日(土)14:00～16:30
 第一部(報告)14:00～15:30
 第二部(休憩、ゲストを交えたクロストーク・質疑応答など)15:30～16:30
 会場：喫茶アミー
 話し手(今年度の協働団体)：東九条空の下写真展実行委員会(村木美都子(東九条まちづくりサポートセンター(まめもやし)事務局長)・やんそる(Books×Coffee Sol.店主、東九条マダン))、崇仁すくすくセンター実行委員会(大森晃子(崇仁デイサービスうおい 管理者)・宮崎彰子(京都市下京・東部地域包括支援センター センター長)・山本麻紀子(アーティスト))、高瀬川モニタリング部(山本洋明(デザイナー)・梅田郁美(京都工芸繊維大学 工芸科学研究科デザイン学専攻 修士)・前田耕平(アーティスト))
 ゲスト：石谷治寛(広島市立大学国際学部准教授、京都市立芸術大学芸術資源研究センター客員研究員)
 アートコーディネーター：石井絢子(一般社団法人HAPS)
 司会：中川真(音楽学者、大阪公立大学都市科学・防災研究センター特任教授)
 主催：一般社団法人HAPS



撮影：小増山貴裕

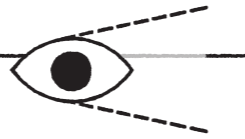
VOICE



やんそるさん
 (東九条空の下写真展実行委員会)

この街で生活する人たちの生きた証が、広く青い空の下に並んだらどんなにステキだろうと夢を見て、東九条空の下写真展が生まれました。夢が一番多く語り合い、夢から広がる可能性が一番多く探り合い、ビジョンを示し、その実行に向けて蓄積されたノウハウを惜みなく提供してくれたHAPS担当者・石井さんがいなければ、写真展にあれほどの彩りが添えられることはなかったでしょう。

写真を提供してくださった人たち、写真を設営した私たち、足を止めて写真に見入る道ゆく人たちみんなが、道路という空間をギャラリーにし、人々の確かな生活の営みが今も昔もここにあることを確認できる文化的時空間を創りだしました。その時空間は地域の児童館と写真家金サジ氏を巻き込んだ「なりたい自分になる!」てらんかいや、配信トークへと広がりました。HAPSと石井さんの協力があったこそです。今後もまだまだ広がりますよ。これからもよろしく願っています。



相談事業

Social Work / Art Conference

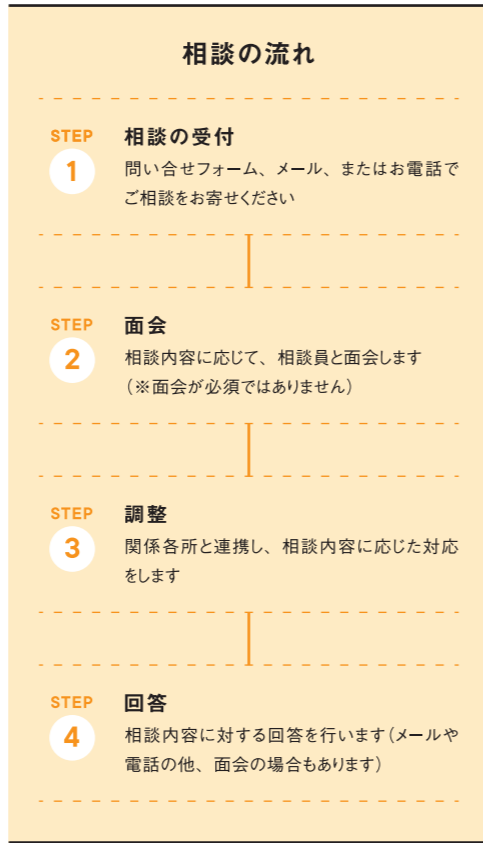
Social Work / Art Conference (SW/AC)は、アートと共生に関わる様々な分野や活動についての相談を受け付けています。今年度は、人・組織・社会制度の間に働きかけるソフトインフラの整備というミッションを踏まえ、4つの対応方針を基本に相談対応を行いました。

本年度は対面での個別相談会と談話室も2回ずつ開催することができ、個別相談会は、アート、福祉、地域などさまざまな領域で活動する方からの新規相談につながりました。談話室では〈創作することを支援する〉ことに関心のある方が集まっていた意見交換、対話の場となりました。

いくつかの相談事例を初年度から行ってきた伴走型支援の形で取り組み、福祉現場での実践を目指す大学院生による障害者支援施設での漫画ワークショップ、宇治市ウトロ地区の地域住民を対象としたワークショップなどをコーディネートしました。また特別支援学校や障害者支援施設への就職を考えている学生からの相談にも対応し、情報提供やヒアリング、見学の同行なども行いました。

2022年度 SW/ACによるソフトインフラの整備

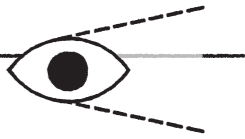
- 1 きく 相談を聞く／対話の相手になる／多様な人が話を聞き合う機会をつくる
- 2 さがす アウトリーチ／中間支援組織へのヒアリング／連携先の開拓
- 3 わたす 参考資料や書類のひな形を提供する／事例共有の講座をひらく
- 4 つなぐ 協働相手や見学場所を紹介し、仲介する。



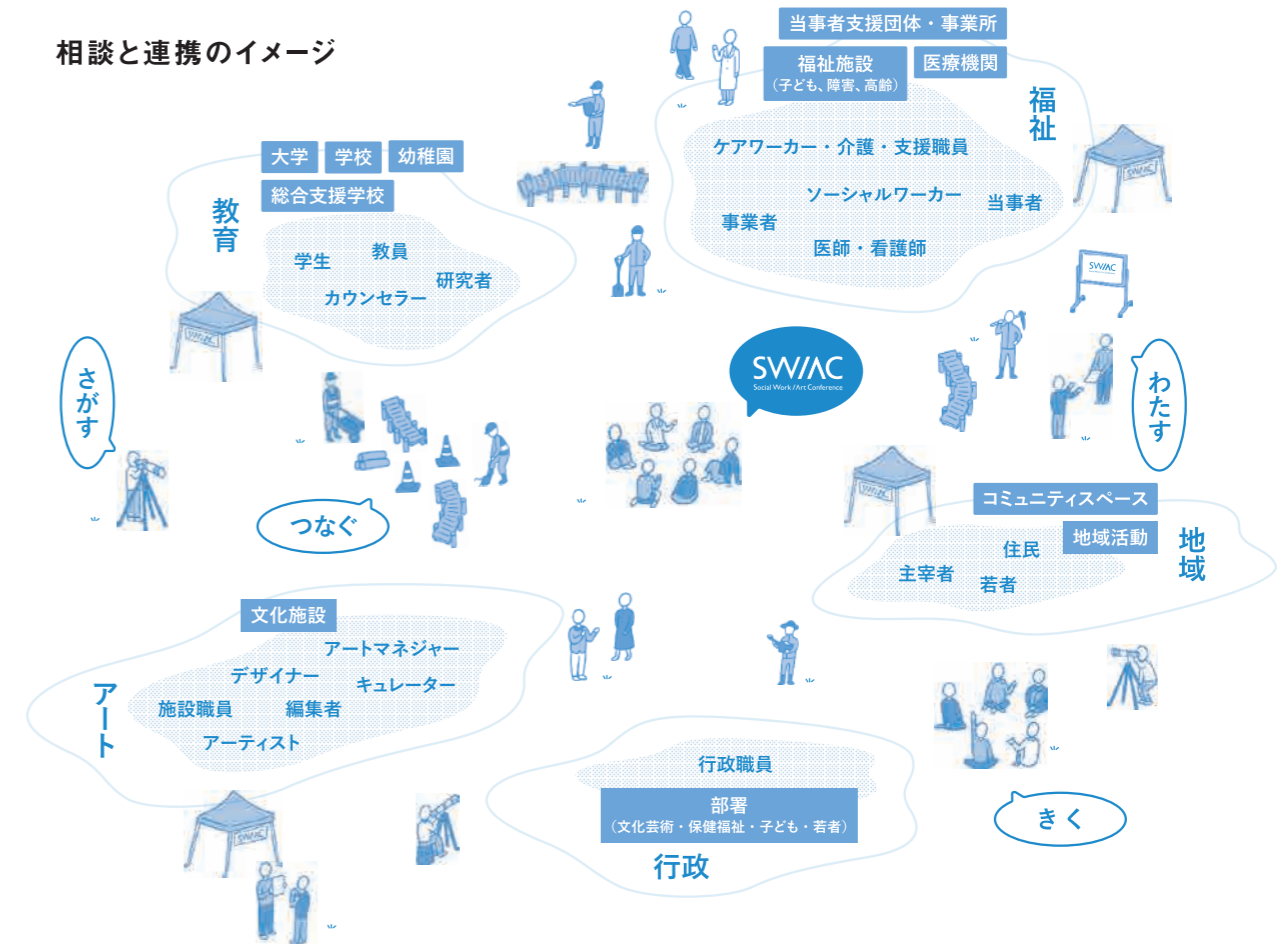
Social Work / Art Conference (SW/AC)



〒601-8004 京都市南区東九条東山王町1 HAPS HOUSE
T 075-748-8575
swac@haps-kyoto.com
<http://haps-kyoto.com/swac/>



相談と連携のイメージ



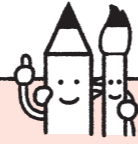
相談から具体化した事例

白鳥健二さんの京都滞在と写真活動をサポート。

アトリエみつしまの企画展「まなざす身体」出展者の白鳥健二さんから、日常的に撮り続けている写真を展覧会で展示することになったため、せっかくであれば京都に1ヶ月ほど滞在し、写真を撮りたいとの相談を受けました。SW/ACでは、HAPS HOUSEを滞在先として提供し、滞在中のサポートをすることになりました。

白鳥さんは白杖を片手に、状況を把握しながらテンポよく街を歩きます。知らない街を一人で歩けるようになるまでには、2週間くらいが必要とのこと、私たちは手引きをして駅までの道のりを一緒に把握したり、買い出しを手伝ったりすることになりました。滞在終盤にはHAPS HOUSEでトークイベントを実施。白鳥さんが滞在中につながった人々を招いて、京都で撮影した約2500枚の写真を見ながら、滞在を振り返りました。



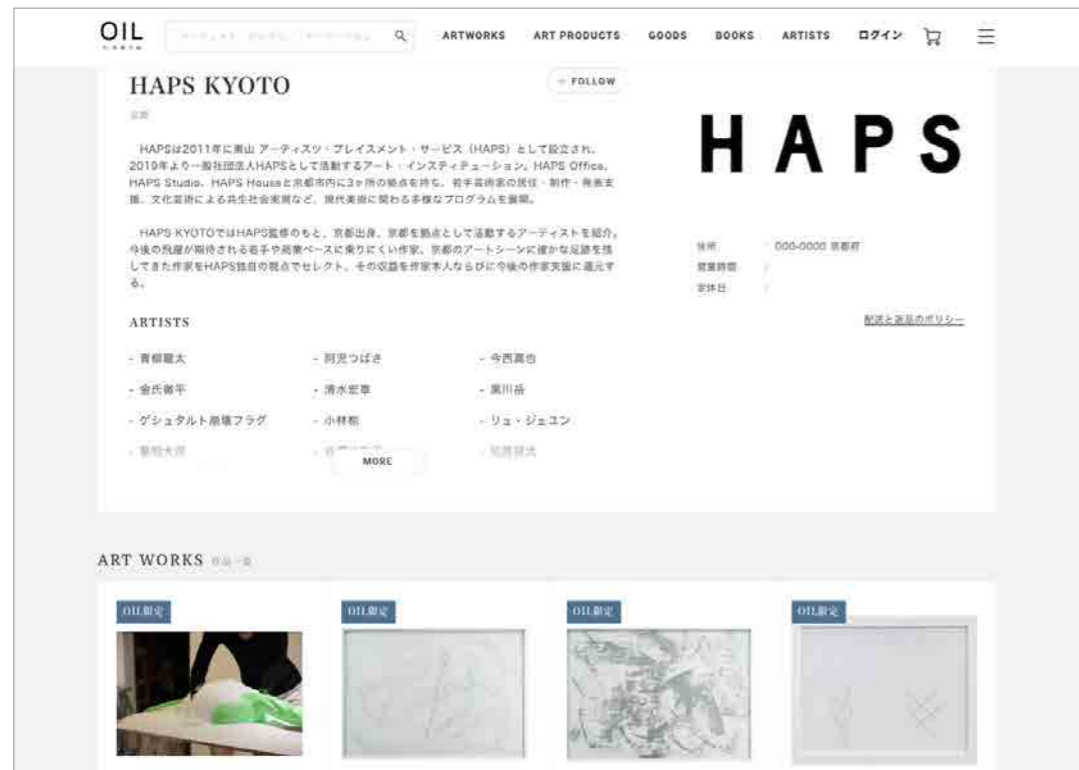


作品出展支援事業

「HAPS KYOTO」

京都市在住ならびに京都市にゆかりのある現代美術作家への新たな支援事業として、『美術手帖』がギャラリーやアートと

共につくる現代アートのオンラインマーケットプレイス「OIL by 美術手帖」への作品出展支援事業「HAPS KYOTO」を開始しました。



オンラインギャラリー 「HAPS KYOTO」

商業ベースではなかなか取り上げられない作家たち、京都のアートシーンに確かな足跡を残してきた作家たち、今後の飛躍が期待される若手作家たちなど、HAPS独自の切り口で選定されたアーティストを広く紹介するオンラインマーケットプレイスです。販売によって得られた収益は各作家たちならびに今後の作家支援のために活用されます。

出展作家：青柳龍太／阿見つばさ／金氏徹平／清水宏章／黒川岳／ゲシュタルト崩壊フラグ／小林椋／蟹恒太郎／谷澤紗和子／リュ・ジェюн／八幡亜樹／今西真也／知原諒汰／藤田紗衣／水木壘／迎英里子／山崎愛彦

作品販売ページ



展覧会「航海のために」

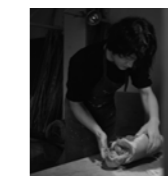
本事業のキックオフ企画として、出品作家たちの作品を実際に鑑賞できる展覧会「航海のために」を「HAPS KYOTO」の出展開始にあわせて開催しました。

会期：2022年11月17日(木)～12月4日(日)
会場：ホールKeiryu (〒605-0901 京都市東山区問屋町通五条下る上人町433 半兵衛麩五条ビル2F)
開館時間：10:00～17:00
休館日：会期中の火・水曜日
入場料：無料
出展者：青柳龍太／金氏徹平／清水宏章／黒川岳／ゲシュタルト崩壊フラグ／小林椋／蟹恒太郎／谷澤紗和子／リュ・ジェюн
主催：一般社団法人HAPS
協力：株式会社 半兵衛麩／現代美術 舂居／天才アート KYOTO／高嶋慈／平田剛志
ロゴデザイン：見増勇介 (ym design)

特集ページ



VOICE



リュ・ジェюнさん

この度「HAPS KYOTO」の企画で「OIL by 美術手帖」でのオンライン販売と展覧会に参加させていただきました。来日してから5年間の活動の中、オンラインでの販売はできておらず、今回の企画はとて新鮮な経験でした。外国人という立場では得られる情報が比較的小さいのですが、この企画で新しい活動ができ、作家としての活動領域が広がる可能性を実験できたとてもありがたい企画でした。自分の作品世界にも新たな影響を与えてくれたことを誠にありがたく思っております。



受託事業

障害者等による 文化芸術活動推進事業

2022年、HAPSは文化庁「令和4年度障害者等による文化芸術活動推進事業」を受託し、「公立美術館における障害者等による文化芸術活動を促進させるためのコア人材のコミュニティ形成を軸とした基盤づくり事業」として、5つのプログラム(カンファレンス、リサーチ、パイロット事業、人材インベストメント事業、アーカイビング)を行いました。

本事業では、障害のある方が積極的に文化芸術活動を行うための多様な手法とその基盤をつくることを目標に、公立美

術と障害、「そもそものところ」から考え、対話と挑戦を続ける。

術館の学芸員、教育・普及担当員等の職員、アーティスト、キュレーターといった人々とともに各種プログラムを実施しました。本年は、カンファレンス、リサーチに加え、パイロット事業としての展覧会をHAPS HOUSEで実施。人材インベストメント事業として、障害と芸術に横たわる課題を議論する講座を京都市内の各所で開催しました。

※カンファレンス、リサーチの結果は「公立美術館における障害者等による文化芸術活動を促進させるためのコア人材のコミュニティ形成を軸とした基盤づくり事業」の報告書にて公開いたします。

01 人材インベストメント事業 「ももぞもずる現場 - 芸術と障害にかかわるひとたちの、ネットワークづくりのためのアセンブリー」

美術館にとって外部の多様な人材との関係性はとても重要です。本活動はそのような人々の緩やかなネットワークを作ることを目的としています。5つの対話プログラムでは、「ミミズのように「ももぞも」と豊かな土壌を創る」

モットーに、美術館とは何だろう、障害とは何だろうといったことを、10名の講師(各回2名)と5名の対話者(各回1名)と参加者で、とめどなく語り合いました。



日時：2022年11月5日(土)、26日(土)、12月10日(土)、17日(土)、2023年1月14日(土) 全て13:00~17:00
会場：京都市地域・多文化交流ネットワークセンター/アトリエみつま/ Social Kitchen / バザールカフェ/京都市立近代美術館
参加費：無料(要申込)
定員：各回20名
登壇者：長津結一郎/服部正/上田假奈代/飯山由貴/阪本結/風間勇助/今村遼佑/船戸彩子/竹内聡/久保田テツ/宮城潤/やんそる/佐藤知久/藤吉祐子/松山沙樹/小山田徹
主催：文化庁/一般社団法人HAPS
共催：京都市立芸術大学
制作：一般社団法人HAPS
協力：京都市/art space co-jin
企画チーム：佐藤知久(言葉を見つめる人)、小山田徹(緩なす人)、今村遼佑(想う人)、船戸彩子(探る人)、阪本結(手を伸ばす人)、中川真(耕す人)、奥山理子(逡巡する人)、内山幸子(醸す人)、野添貴恵(潜る人)



プログラム

PROGRAM 01 「研究の現場から」

日時：2022年11月5日(土)13:00-17:00(トーク2時間+ゆるゆる対話2時間)
講師：長津結一郎(アーツマネジメント・文化政策学研究者/九州大学大学院芸術工学研究院准教授)
服部正(美術史・芸術学/甲南大学教授)
対話：上田假奈代(詩人/NPO法人こえとことばとこころの部屋(ココローム)代表理事)
会場：京都市地域・多文化交流ネットワークセンター(京都市南区東九条東岩本町31)



PROGRAM 02 「アートの現場から」

日時：2022年11月26日(土)13:00-17:00(トーク2時間+ゆるゆる対話2時間)
講師：飯山由貴(アーティスト)
阪本結(アーティスト)
対話：風間勇助(刑務所と芸術・アーツマネジメント研究者/龍谷大学犯罪学研究センター嘱託研究員)
会場：アトリエみつま(京都市北区紫野下門前町44)

PROGRAM 03 「障害とアートの現場から」

日時：2022年12月10日(土)13:00-17:00(トーク2時間+ゆるゆる対話2時間)
講師：今村遼佑(アーティスト/art space co-jin スタッフ)
船戸彩子(アーティスト/art space co-jin スタッフ)
竹内聡(クリエイティブサポートレッツ スタッフ)
対話：久保田テツ(映像作家/大阪音楽大学准教授)
会場：Social Kitchen(京都市上京区相国寺門前町699)



PROGRAM 04 「草の根の現場から」

日時：2022年12月17日(土)13:00-17:00(トーク2時間+ゆるゆる対話2時間)
講師：宮城潤(「アート×社会教育」実践者/若狭公民館館長)
やんそる(東九条マダン/Books×Coffee Sol.)
対話：佐藤知久(文化人類学者/京都市立芸術大学芸術資源研究センター教授)
会場：バザールカフェ(京都市上京区岡松町258)

PROGRAM 05 「そもそも美術館について」

日時：2023年1月14日(土)13:00-17:00(トーク2時間+ゆるゆる対話2時間)
講師：藤吉祐子(美術館教育/国立国際美術館主任研究員)
松山沙樹(美術館教育/京都国立近代美術館研究員)
対話：小山田徹(美術家/京都市立芸術大学教授)
会場：京都国立近代美術館(京都市左京区岡崎円勝寺町26-1)





02 パイロット事業 フェア 展覧会「キュレーションを公平に拡張する vol.1『私はなぜ古谷渉を選んだのか』」

滋賀県立美術館 館長(ディレクター)の保坂健二朗さんをゲストキュレーターに招聘し、HAPS HOUSE内のギャラリーを会場とした古谷渉さんの個展「私はなぜ古谷渉を選んだのか」を開催し、図録を制作しました。この展示は現代美術、とりわけキュレーションの諸実践を通して、障害のある人によるアートと現代美術の「棲み分け」に積極的に働きかけることを

ねらい、気鋭の現代美術キュレーターによる展覧会制作を通して、小さな踏きの一つ一つを確認し、着実に「開かれた、公平なアート」へと歩みを進めることを目指したものです。また会期中の関連イベントとして保坂氏によるトークも実施し、会場を前に、本展で試みたことや開催してみたの思いなどをさまざまにお話しいただきました。



展覧会
会期：2023年1月7日(土)～29日(日)11:00～19:00
会場：HAPS HOUSE
入場料：無料
出展者：古谷渉
ゲストキュレーター：保坂健二朗

トーク
会場：HAPS HOUSE
日時：2023年1月13日(金) /
1月27日(金)19:00～20:00



出展者プロフィール

古谷渉 (ふるたに わたる)

1974年生まれ。東京都在住。幼少から変わっているのかいじめられ自信を失い病がありつつも2010年頃から絵を描き始める事で今にいたる。ポコラート全国公募Vol.6(2016年)にて保坂健二朗賞を受賞。

キュレーター

保坂健二朗 (ほさか けんじろう)

1976年茨城県生まれ。2000年慶應義塾大学大学院修士課程修了。2000年から2020年まで東京国立近代美術館に勤務。2021年より現職。主な著作に『アール・ブリュット アート 日本』(監修、平凡社、2013)など。文化庁および厚生労働省による障害者文化芸術活動推進有識者会議の委員も務める。

VOICE

保坂健二朗さん (ゲストキュレーター)

HAPS HOUSEにできた展示室は約23平方メートル、実験的な展示をするにはうってつけのサイズ。今回はそこで、「キュレーションを公平に拡張する」というちょっと変わったシリーズタイトルのついた展覧会を担当させていただきました。このタイトル=コンセプトを実現するにはどうしたらよいか、HAPSのスタッフたちと打ち合わせを重ねたのですが、印象的だったのは、ミーティングテーブルが路地に面した土間にあるので、道行く人には丸見えだったこと。そんな場所で議論することで、この展覧会では、規模は小さくとも公に資することをやるんだという気持ちがぐっと深まりました。「空間」って大事ですよ(秋の夜だと、ちょっと寒かったけれど、それもまたよい!)

COOPERATION



協力事業

2022年度、HAPSが関わった企画の一部を紹介します。

東九条アンサンブル

↳ 東九条地域での会場としてHAPS HOUSEを提供しました。

東九条アンサンブルは、若手アーティストと創作や演奏をしている地域のアーティストによる小さな芸術祭です。東九条周辺会場で若手アーティストによる作品展示と、地域のアーティストによる朗読と演奏会を行います。この小さな芸術祭は、京都市立芸術大学の移転を前に変化の時を迎えている東九条で、個の関係を起点に互いを認め合い、街、そして自己に向き合おうとするアーティスト達の試みを紹介するものとして開催されました。

日時：2022年10月28日(金)～11月6日(日)10:00～17:00

アーティスト：宇山心奈／玉井静穂／西嶋夏海／野村由香／フベン／山本紗佑里／やんそる
会場：作品展示→ノランナラン(京都市南区東九条西岩本町16-2 2F)／Taroハウス／京都市地域・多文化交流ネットワークセンター

イベント→Books×Coffee Sol.(朗読)／HAPS HOUSE(演奏会)／元陶化小学校(東九条マダンでのワークショップ)

協力：一般社団法人HAPS／京都市地域・多文化交流ネットワークサロン／東九条マダン／Books×Coffee Sol.

助成：公益財団法人朝日新聞文化財団／Arts Aid KYOTO／アーツサポート関西



『えんとこの歌 寝たきり歌人 遠藤滋』上映会

↳ Social Work / Art Conference(SW/AC)ディレクターの奥山理子がアフタートークに出演しました。

ドキュメンタリー映画作家・伊勢真一さんによって収められた、脳性マヒの障がいを持った遠藤さんと彼の生活を支える多くのヘルパーたちとの生活を捉えた「えんとこ」＝「遠藤さんの居るところ、縁のあるところ」を記録した「えんとこ」(1999年)から約20年を経て作られた続編『えんとこの歌 寝たきり歌人 遠藤滋』。2022年に逝去された遠藤さんや伊勢さんとの交流もあったココベリ121の協賛のもと、追悼の意も込めて『えんとこの歌』上映会が5minutes filmsが主催のもとで行われました。

日時：2022年12月18日(日)13:00- / 15:30- / 18:30- (全3回、15:30-の上映後にアフタートークあり)

会場：井口倉庫(〒601-8025 京都府京都市南区東九条柳下町16-6)

主催：5minutes films

協賛：NPOココベリ121 / 井口倉庫



PHOTO by KAORI YAMANE

事業実績

ACHIEVEMENTS

相談受付数 アーティストから86件 支える人から115件 計201件
物件マッチング コーディネート実現数0件 シェアスタジオへの入居実現数5件
広報 新聞21件 ウェブ104件 雑誌1件 その他4件 計130件
インターネット ウェブサイトアクセス数145091件 Facebookフォロワー数3146件 Twitterフォロワー数4454件
視察 14件

主催事業

タイトル	開催日	会場	ゲスト等	共催等
HAPSスタジオ使用開始	2022/4/1~	HAPSスタジオ	禹歩/小林椋/ヒスロム+和田寛司/宮木亜葉/本山ゆかり/八幡亜樹	
SW/AC相談会&談話室	2022/4/2	HAPS HOUSE		
GA TALK Q33「空白の時を位置づける(キュレーションの諸問題)」by ホー・ツーニエン	2022/7/2	京都芸術大学 人間館地下1階 映像ホール/オンライン	ホー ツーニエン	京都芸術大学大学院
GA TALK Q34「武力闘争の時代にアートを教えること」by サスキア・ボス(美術史家、キュレーター)	2022/8/8	京都芸術大学 人間館地下1階 映像ホール/オンライン	サスキア ボス	京都芸術大学大学院
トークイベント「巨人の歯と眠り」[糸と布染め][崇仁すくすくセンター(挿し木プロジェクト)]	2022/8/21	京都市下京いきいき市民活動センター 3階集会所	山本麻紀子	崇仁すくすくセンター実行委員会
SW/AC相談会	2022/9/3	HAPS HOUSE		
SW/AC談話室	2022/9/16	HAPS HOUSE		
GA TALK Q35「紙の跳躍とその他のムーブメント」by ヤン・ヘギュ	2022/10/5	京都芸術大学 人間館地下1階 映像ホール/オンライン	ヤン ヘギュ	京都芸術大学大学院
もぞもぞする現場 - 芸術と障害にかかわるひとたちの、ネットワークづくりのためのアセンブリー「研究の現場から」	2022/11/5	京都市地域・多文化交流ネットワークセンター	長津結一郎/服部正/上田假奈代	共催：京都市立芸術大学 協力：京都市/art space co-jin
航海のために	2022/11/17~12/4	ホール Keiryu	青柳龍太/金氏徹平/清水宏章/黒川岳/ゲシュタルト崩壊フラグ/小林椋/齋恒太郎/谷澤紗和子/リュ・ジユン	株式会社 半兵衛 麩/高嶋 慈/平田剛志
もぞもぞする現場 - 芸術と障害にかかわるひとたちの、ネットワークづくりのためのアセンブリー「アートの現場から」	2022/11/26	アトリエみつしま	飯山由貴/阪本結/風間勇助	共催：京都市立芸術大学 協力：京都市/art space co-jin
GA TALK Q36「再の差異、Reの話」by 荒木悠	2022/11/28	京都芸術大学 人間館地下1階 映像ホール/オンライン	荒木悠	京都芸術大学大学院
もぞもぞする現場 - 芸術と障害にかかわるひとたちの、ネットワークづくりのためのアセンブリー「障害とアートの現場から」	2022/12/10	Social Kitchen	今村遼佑/船戸彩子/竹内聡/久保田テツ	共催：京都市立芸術大学 協力：京都市/art space co-jin
もぞもぞする現場 - 芸術と障害にかかわるひとたちの、ネットワークづくりのためのアセンブリー「草の根の現場から」	2022/12/17	バザールカフェ	宮城潤/やんそる/佐藤知久	共催：京都市立芸術大学 協力：京都市/art space co-jin
GA TALK Q37「スペース、ストーリー、シチュエーション」by ライアン・タベット	2022/12/20	京都芸術大学 人間館地下1階 映像ホール/オンライン	ライアン タベット	京都芸術大学大学院
GA TALK Q38「MAKE, DO, WITH」by エリック・ボードレール	2022/12/26	京都芸術大学 人間館地下1階 映像ホール/オンライン	エリック ボードレール	京都芸術大学大学院
キュレーションを公平に拡張する vol.1「私はなぜ古谷渉を選んだのか」	2023/1/7~1/29	HAPS HOUSE	出展者：古谷渉 ゲストキュレーター：保坂健二郎	主催：文化庁/一般社団法人HAPS 協力：社会福祉法人おいてけ堀協会
もぞもぞする現場 - 芸術と障害にかかわるひとたちの、ネットワークづくりのためのアセンブリー「そもそも美術館について」	2023/1/14	京都国立近代美術館	藤吉祐子/松山沙樹/小山田徹	共催：京都市立芸術大学 協力：京都市/art space co-jin
京都精華大学オンライン公開講座 レクチャー+「ホルムアルデヒド・トリップ」上映	2023/2/17	オンライン	菅野優香/ほんまなほ	主催：京都精華大学
2022年度 文化芸術による共生社会実現に向けた基盤づくり事業 モデル事業 報告会「トークイベント 離れられない大切な場所とともに生きていくために」	2023/3/25	喫茶アミー	ゲスト：石谷治寛 司会：中川真	

協力事業等

タイトル	開催日	会場	協力内容	主催
nejj&co. "Sign" "Cue"	2022/4/8~4/10	THEATRE E9 KYOTO	スタジオ使用(振子)	nejj&co.
東九条 空の下写真展	2022/4/17~5/22	須原通り沿い空き地フェンス	制作協力	東九条 空の下写真展実行委員会
「反復と平和——日々、わたしを繰り返す」	2022/4/29~7/31	ボーダレス・アートミュージアムN O- MA	スタジオ使用(小林)	社会福祉法人グロー(GLOW)~生きることが光になる~
VOU/棒 7th Anniversary ART-ISTS' FLEA VOU KYOTO 2022	2022/5/1~5/29	VOU	スタジオ使用(宮木)	VOU
「金サジ、マユンキキ、山本麻紀子」	2022/5/14~7/3	半兵衛 麩五条ビル2F	機材協力	Kyoto Interchange
BankART Under 35 2022	2022/7/1~7/18	BankART KAIKO	スタジオ使用(小林)	BankART1929
高瀬川モニタリング部報告会	2022/7/29~7/31	高瀬川・四季AIR	制作協力	高瀬川モニタリング部
ヌー・フォー・フィヌ・フェニ・ファー	2022/8/27~9/10	gallery N 神田社宅	スタジオ使用(小林)	gallery N
「Cue」nejj&co.	2022/9/16~9/17	芸術文化観光専門職大学 小劇場・そぞろ座	スタジオ使用(振子)	豊岡演劇祭2022
高瀬川モニタリング部報告会 vol.2	2022/9/23~9/25	高瀬川・四季AIR	制作協力	高瀬川モニタリング部
三枝愛「布置」	2022/9/28~10/15	Bambinart Gallery	スタジオ使用(三枝)	Bambinart Gallery
アトリエみつしま企画展 まなざす身体	2022/10/1~10/30	アトリエみつしま	制作滞在協力	アトリエみつしま
東九条 空の下写真展 × 希望の家児童館 × 金サジ「なりたい自分になる!」てらんかい	2022/10/7~10/25	京都市地域・多文化交流ネットワークセンター	制作協力	希望の家児童館/東九条 空の下写真展実行委員会
手話・字幕つき「オールド ロング ステイ / OLD LONG STAY」京都上映会	2022/10/15~10/16	龍谷大学 響都ホール	制作協力	「オールドロングステイ」京都上映実行委員会
金 サジ個展「物語」シリーズより「山に歩む舟」	2022/10/27~11/14	PURPLE	広報協力	Sajik & co.
東九条アンサンブル	2022/10/28~11/6	ノランナラン/Taroハウス/京都市地域・多文化交流ネットワークセンター/Books×Coffee Sol/HAPS HOUSE/元陶化小学校	会場提供/広報協力	東九条アンサンブル
「庭のほつれ なばに祈る」	2022/11/5~11/20	ドマコモンズ	スタジオ使用(三枝)	庭のほつれ実行委員会
亀はニエフスのイウユのように前足を石にのぼすと	2022/12/10~2023/1/22	トーキョーアーツアンドスペース本郷 スペースB	スタジオ使用(小林)	トーキョーアーツアンドスペース
「えんとこの歌 寝たきり歌人 遠藤滋」上映会	2022/12/28	井口倉庫	アフタートーク登壇	5minutes films
「庭のほつれ なばに祈る」	2023/1/18 ~ 2/4	Bambinart Gallery	スタジオ使用(三枝)	Bambinart Gallery
うらら絵画祭	2023/2/4 ~ 2/19	The 5th Floor ほか8会場	スタジオ使用(本山)	ストレンジャーによるよく実行委員会
崇仁すくすくセンター(挿し木プロジェクト)2022年度活動報告展	2023/2/5~2/12	京都市下京いきいき市民活動センター(うるおい館)	広報協力	崇仁すくすくセンター実行委員会
八幡亜樹：ベジュバルマクと呼ばないで //2022	2023/2/14~5/28	京都市京セラ美術館 ザ・トライアングル	スタジオ使用(八幡)	京都市京セラ美術館
スウと数えるように湿っぽい佇まいは、スウと巻かれる音として碎ける前に、スウと囲いまで敷きつめているようで	2023/2/14~3/4	galerie 16	スタジオ使用(小林)	galerie 16
アトリエみつしま企画展 今村遼佑×光島貴之〈感覚の果て〉	2023/2/18~3/19	アトリエみつしま	機材協力	アトリエみつしま
対談：数学者と美術作家の交流の試み	2023/2/25	kumagusuku SAS	広報協力	前川 紘士
imperceptible portraits	2023/3/2~4/3	千總ギャラリー(ギャラリー 2)	スタジオ使用(本山)	企画：池田光弘
振子びじん「ストリーム」	2023/3/4	KAIKA	スタジオ使用(振子)	nejj&co.
金サジ写真集『物語』出版記念トークイベント コリアンマイノリティをめぐる社会的「物語」	2023/3/5	GALLERY & EVENT SPACE NEUTRAL	広報協力	金サジ

タイトル	開催日	会場	協力内容	主催
高瀬川モニタリング部報告会 vol.3	2023/3/10~12	高瀬川・四季AIR	制作協力	高瀬川モニタリング部
トーク「巨人×眠り×植物」	2023/3/11	GALLERY & EVENT SPACE NEUTRAL	広報協力	山本麻紀子(崇仁すくすくセンター)
馬歩 オープンスタジオ	2023/3/18、20、21	HAPSスタジオ3階D室	スタジオ使用(馬歩)	三枝愛(馬歩)
ヒスロム活動報告展+アルミ鋳造イベント in 仙台	2023/3/25~4/4	even	スタジオ使用(ヒスロム)	TURNAROUND
批評誌「羅」刊行記念トークイベント 宇野常寛×大垣守可×黒寄想	2023/3/31	GALLERY & EVENT SPACE NEUTRAL	機材協力	批評誌「羅」発行プロジェクト/NEUTRAL

トーク等への参加

タイトル	開催日	会場	主催
Air STUDYHALL	2022/6/4~6/5	α-STATION	(株)ワコール
シンポジウム「共生と分有のトポス～潜在的コモンズの連続デザイン」	2022/11/5	京都国立近代美術館1階講堂	京都市立芸術大学
アーティスト・イン・レジデンスを学ぶオンラインレクチャー	2022/11/28	オンライン	BEPPU PROJECT

掲載

タイトル	掲載日	媒体	分類	掲載内容	発行元
Social Work / Art Conferenceのコーディネートによる絵本「はなのちるちる」の発行について	2022/4/19	京都市情報館	web	SW/AC協カプロジェクト紹介	京都市
かつての東九条 写真で	2022/4/26	京都新聞	新聞	協力展示紹介	京都新聞社
BankART Under 35 2022	2022/4/28	ウェブ版美術手帖	web	協力展示紹介	カルチュア・コンビニエンス・クラブ株式会社
企画展「反復と平和——日々、わたしを繰り返す」	2022/4/29	ボーダレス・アートミュージアムNO-MAウェブサイト	web	協力展示紹介	社会福祉法人グロー(GLOW)～生きることが光になる～
「VOU/棒 7th Anniversary - ARTISTS' FLEA VOU KYOTO 2022 -」	2022/5/1	TOKYO ART BEAT	新聞	協力展示紹介	株式会社アートビート
企画展「反復と平和——日々、わたしを繰り返す」	2022/5/2	美術展ナビ	web	協力展示紹介	読売新聞社
金サジ、マユキキ、山本麻紀子	2022/5/8	ウェブ版美術手帖	web	協力展示紹介	カルチュア・コンビニエンス・クラブ株式会社
京都に新たなプラットフォーム。「Kyoto Interchange」が設立	2022/5/9	ウェブ版美術手帖	web	協力展示紹介	カルチュア・コンビニエンス・クラブ株式会社
【半兵衛五条ビル】現代Art展覧会開催のご案内(5/14～7/3)※入場無料	2022/5/10	半兵衛五条ビルウェブサイト	web	協力展示紹介	株式会社 半兵衛五
障がい者も、そうでない人も。しなやかにつながりたい	2022/5/10	ハンケイ500m vol.67	雑誌	奥山理子インタビュー	株式会社 union.a
滋賀・ボーダレス・アートミュージアムNO-MAで企画展「反復と平和——日々、わたしを繰り返す」開催中	2022/5/10	DIVERSITY IN THE ARTS TODAY	web	協力展示紹介	日本財団
世の初めから現れていること(長谷川新による展覧会レビュー)	2022/5/11	あをば荘ウェブサイト	web	協力展示レビュー	あをば荘
東九条の「空の下 写真展」を鑑賞	2022/5/11	こくた恵二 site	web	協力展示紹介	衆議院議員こくた恵二 京都事務所
元小学校の空き教室を活用した制作室(HAPSスタジオ)を使用する若手芸術家の決定について	2022/5/12	京都市情報館	web	スタジオ使用者決定告知	京都市
The Beauty of Society Story.06 障がい者も、そうでない人も。しなやかにつながりたい	2022/5/14	ワコールスタディホール京都ウェブサイト	web	奥山理子インタビュー	(株)ワコール
金サジ、マユキキ、山本麻紀子	2022/5/14	ウェブ版美術手帖	web	協力展示紹介	カルチュア・コンビニエンス・クラブ株式会社

タイトル	掲載日	媒体	分類	掲載内容	発行元
金サジ、マユキキ、山本麻紀子	2022/5/14	TOKYO ART BEAT	web	協力展示紹介	株式会社アートビート
金サジ、マユキキ、山本麻紀子	2022/5/16	デザイン情報サイト[JDN]	web	協力展示紹介	株式会社 JDN
BankART Under 35 2022	2022/5/16	横浜観光情報	web	協力展示紹介	公益財団法人横浜観光コンベンションビューロー
ボーダレス・ミュージアムNO-MA	2022/5/17	滋賀報知新聞	web	協力展示紹介	滋賀報知新聞社
消滅からの回復 形変え受け継ぐ	2022/5/21	京都新聞	新聞	協力展示紹介	京都新聞社
かつての風景を伝える「東九条空の下写真展」 22日まで	2022/5/21	朝日新聞デジタル	web	協力展示紹介	朝日新聞社
「人の営み」繋げたい／京都・東九条で写真展	2022/5/24	朝鮮新報	新聞	協力展示紹介	朝鮮新報社
私たちは「古い」とどう向き合えばいい?介護現場×絵本制作のプロが生んだ「はなのちるちる」	2022/5/31	こここ	web	SW/AC協カプロジェクト紹介	株式会社マガジンハウス
Sound Around 002	2022/5/31	IAMAS 活動告知	web	協カイベント紹介	情報科学芸術大学院大学
2022年6月放送「Air STUDYHALL」	2022/6/2	ワコールスタディホール京都ウェブサイト	web	奥山理子出演	(株)ワコール
TEA FOR TWO Air STUDYHALL	2022/6/4~5	α-STATION	その他	奥山理子出演	株式会社エフエム京都
「Air STUDYHALL」2022.6.4(Sat)	2022/6/4	α-STATION	web	奥山理子出演	株式会社エフエム京都
「Air STUDYHALL」2022.6.5(Sun)	2022/6/5	α-STATION	web	奥山理子出演	株式会社エフエム京都
OPEN SITE 7	2022/6/7	TOKASウェブサイト	web	協力展示紹介	トーキョーアーツアンドスペースオフィス
北陸工芸の魅力国内外に発信する「GO FOR KOGEI 2022」開催決定	2022/6/7	AXIS Web Magazine	web	スタジオ使用者展示紹介(宮木)	株式会社アクセス
BankART Under 35 2022	2022/6/12	ウェブ版美術手帖	web	協力展示紹介	BankART
第4回京都文学賞 作品及び読者選考委員の募集要項を発表!8月1日から募集を開始します。また、新規協力出版社として「ちいさいミヤマ社」が参画し、新しいポスター・リーフレットも制作しました!	2022/6/17	京都文学賞ウェブサイト	web	協力展示紹介	京都文学賞実行委員会
京都文学賞 応募期間2倍に	2022/6/18	京都新聞	新聞	「芸術家×仕事」事例紹介	京都新聞社
マイノリティーに焦点 金サジら3人展	2022/6/18	日本経済新聞	新聞	協力展示紹介	日本経済新聞社
コネクタテレビ インタビュー Vol.177 SW/AC	2022/6/20	コネクタテレビ	その他	SW/AC 紹介	npo recip
反復と平和—日々、わたしを繰り返す	2022/6/28	ウェブ版美術手帖	web	協力展示紹介	カルチュア・コンビニエンス・クラブ株式会社
GLOBAL ART TALK 033 ホー・ツーエン氏「空白の時を位置づける(キュレーションの諸問題)」	2022/6/29	京都芸術大学イベント情報	web	GA TALK 紹介	京都芸術大学
商業偏重のアート界に疑義 寄付や取り分の配分、作家が決め公開 京都でプロジェクト第1弾展	2022/6/30	アートの森	web	協力展示紹介	毎日新聞社
反復から平和を見ることが。ボーダレス・アートミュージアムNO-MAの企画展「反復と平和—日々、わたしを繰り返す」に、小林椋、横山奈美ら7人が参加(～7月31日)	2022/7/3	ウェブ版美術手帖	web	協力展示紹介	カルチュア・コンビニエンス・クラブ株式会社
北 陸 工 芸 の 祭 典「GO FOR KOGEI 2022」が今年も開催。「つくる」行為を多面的に見つめ直す	2022/7/11	ウェブ版美術手帖	web	スタジオ使用者展示紹介(宮木)	カルチュア・コンビニエンス・クラブ株式会社
小林椋「ヌー・フォー・フィニス・フェニ・ファー」のお知らせ	2022/7/31	florist_gallery N	web	協力展示紹介	gallery N 神田社宅
第四回京都文学賞 作品募集	2022/7/31	京都新聞	新聞	協力事業紹介	京都新聞社
「Sound Around 002」公演評 つねに変化する、無数の回転=反復するもの	2022/8/1	SPIN OFF	web	協力展示レビュー	ロームシアター京都

タイトル	掲載日	媒体	分類	掲載内容	発行元
「Sound Around 002」公演評 どうすれば取り囲む音を記述できるだろう	2022/8/1	SPIN OFF	web	協力展示レビュー	ロームシアター京都
武力闘争の時代に アートを教えること	2022/8/5	京都芸術大学イベント情報	web	GA TALK 紹介	京都芸術大学
「ヌー・フォー・フィニス・フェニ・ファー」	2022/8/9	gallery N ウェブサイト	web	協力展示紹介	gallery N
Untitled vol.7	2022/8/10	広島市現代美術館休館中限定ニュースレター	その他	スタジオ使用者紹介(ヒスロム)	広島市現代美術館
gallery N 神田社宅にて、小林椋「ヌー・フォー・フィニス・フェニ・ファー」が2022年8月27日(土)から9月10日(土)まで開催	2022/8/23	hibiA	web	協力展示紹介	株式会社マイリアルビジョン
ヒスロム「現場サテライト」記録・資料展示3	2022/8/30	広島市現代美術館ウェブサイト	web	スタジオ使用者展示紹介(ヒスロム)	広島市現代美術館
アーティスト前田耕平さんが高瀬川で見つめ、考えること。	2022/8/31	5 to 9	その他	協力事業紹介	京都市総合企画局プロジェクト推進室
ヒスロム「現場サテライト」記録・資料展示3 @広島駅南口地下広場ショールーム	2022/9/1	ART iT	web	スタジオ使用者展示紹介(ヒスロム)	株式会社アートイット
あそびのダイナミクス こころのインタラクティブ	2022/9/1	文化庁メディア芸術祭名古屋展ウェブサイト	web	スタジオ使用者展示紹介(小林)	文化庁
北陸工芸の祭典「GO FOR KOGEI 2022」。特別展「つくるー土地、くらし、祈りが織りなすものー」に鴻池朋子ら20作家が参加	2022/9/5	ウェブ版美術手帖	web	スタジオ使用者展示紹介(宮木)	カルチュア・コンビニエンス・クラブ株式会社
“Hokuriku Crafts Festival GO FOR KOGEI 2022” Will Be Held	2022/9/6	KOGEI STANDARD	web	スタジオ使用者展示紹介(宮木)	HULS Inc.
感情を、ゆらす。北陸工芸の祭典「GO FOR KOGEI」今年の見どころは?	2022/9/6	BONNO	web	スタジオ使用者展示紹介(宮木)	ビッグカントリージャパン株式会社
「庭のほつれ なばに祈る」	2022/9/10	ベップ・アート・マンス2022ウェブサイト	web	協力展示紹介	混浴温泉世界実行委員会事務局
三枝愛「布置」	2022/9/13	Bambinart Gallery ウェブサイト	web	協力展示紹介	Bambinart Gallery
アトリエみつしま企画展 まなざす身体	2022/9/13	アトリエみつしまウェブサイト	web	協力展示紹介	アトリエみつしま
京都一周トレイル®公式ガイドマップを改訂します!	2022/9/13	京都観光 Navi	web	「芸術家×仕事」事例紹介	京都観光協会
【展覧会情報】アトリエみつしま企画展「まなざす身体」のご案内	2022/9/14	ART BRUT INFORMATION & SUPPORT CENTER アイサ	web	協力展示紹介	社会福祉法人グロー(GLOW)～生きることが光になる～
工芸 北陸3寺社で紹介 「GO FOR KOGEI」きょう開幕	2022/9/17	中日新聞	web	スタジオ使用者展示紹介(宮木)	中日新聞社
【内覧会レポート】富山県高岡市の勝興寺にて北陸工芸の祭典「GO FOR KOGEI」開催中(9/17～10/23)	2022/9/17	ONBEAT	web	スタジオ使用者展示紹介(宮木)	株式会社 音美衣社
ヒスロム「現場サテライト」記録・資料展示3	2022/9/26	ウェブ版美術手帖	web	スタジオ使用者展示紹介(ヒスロム)	カルチュア・コンビニエンス・クラブ株式会社
北陸3県にまたがる「GO FOR KOGEI 2022」。特別展に見る現代作家による新たな発想	2022/9/28	ウェブ版美術手帖	web	スタジオ使用者展示紹介(宮木)	カルチュア・コンビニエンス・クラブ株式会社
3331 ART FAIR 2022	2022/9/30	TOKAS ウェブサイト	web	スタジオ使用者展示紹介(小林)	トーキョーアーツアンドスペースオフィス
アトリエみつしま企画展 まなざす身体	2022/9/30	artscape	web	協力展示紹介	大日本印刷株式会社
GLOBAL ART TALK 035 ヤン・ヘクユ氏「紙の跳躍とその他のムーブメント」	2022/10/1	京都芸術大学イベント情報	web	GA TALK 紹介	京都芸術大学
三枝愛「布置」	2022/10/3	ウェブ版美術手帖	web	協力展示紹介	カルチュア・コンビニエンス・クラブ株式会社
飯山由貴監督作品(手話・字幕つき)「オールド ロング ステイ / OLD LONG STAY」京都上映会&トークセッション	2022/10/10	KYOTO ART BOX	web	協カイベント紹介	公益財団法人京都市芸術文化協会
最終選考委員の校條 剛さんの書籍「小説作法の殺人」が協力出版社である祥伝社から刊行されました!	2022/10/13	京都文学賞ウェブサイト	web	「芸術家×仕事」事例紹介	京都文学賞実行委員会
知らせ、繋げ、問題解決への一步を / 在日無年金問題関連映画「OLD LONG STAY」上映会	2022/10/19	朝鮮新報	web	協カイベント紹介	朝鮮新報社
差別の事実、ないがしろにしない / 「OLD LONG STAY」上映会アフタートーク	2022/10/19	朝鮮新報	web	協カイベント紹介	朝鮮新報社

タイトル	掲載日	媒体	分類	掲載内容	発行元
【イベント情報】トークイベント「もぞもぞする現場」のご案内	2022/10/20	ART BRUT INFORMATION & SUPPORT CENTER アイサ	web	受託事業紹介	社会福祉法人グロー(GLOW)～生きることが光になる～
五感を通して「見る」視覚障害者らアート展	2022/10/21	京都新聞	新聞	協力展示紹介	京都新聞社
シンポジウム「共生と分有のトボス～潜在的コモンズの連環デザイン」	2022/10/26	京都市立芸術大学ウェブサイト	web	協カイベント紹介	京都市立芸術大学
ー芸術と障害にかかわるひとたちの、ネットワークづくりのためのアセンブリー「研究の現場から」	2022/10/27	KYOTO ART BOX	web	受託事業紹介	公益財団法人京都市芸術文化協会
金サジ「物語」シリーズより 山に歩む舟	2022/10/28	ウェブ版美術手帖	web	協力展示紹介	カルチュア・コンビニエンス・クラブ株式会社
シンポジウム 共生と分有のトボス～潜在的なコモンズの連環デザイン	2022/10/28	共生と分有のトボスウェブサイト	web	協カイベント紹介	京都市立芸術大学
既存の地図から遊戯的に逸脱「みちとゆくえー」展	2022/10/29	京都新聞	新聞	モデル事業作品紹介	京都新聞社
まなざす身体展	2022/10/29	京都新聞	新聞	協力展示紹介	京都新聞社
障害とアートの“そもそも”を語ろう。(HAPS)が5つの対話プログラム「もぞもぞする現場」を開催	2022/11/2	こここ	web	受託事業紹介	株式会社マガジンハウス
共生と分有のトボス～潜在的なコモンズの連環デザイン	2022/11/2	artscape	web	協カイベント紹介	大日本印刷株式会社
シンポジウム「共生と分有のトボス～潜在的コモンズの連環デザイン」	2022/11/4	京都イベントナビ	web	協カイベント紹介	京都市民報
動乱を生きる人類の生命力 金サジ展	2022/11/5	京都新聞	新聞	協力展示紹介	京都新聞社
京都文学賞 第3回 中高生部門 最優秀賞受賞作の刊行及び優秀賞受賞作のデジタルブック掲載について	2022/11/11	京都市情報館	web	「芸術家×仕事」事例紹介	京都市
第3回中高生部門最優秀賞受賞作「ちとせ」が11月11日に刊行! 同部門優秀賞受賞作のデジタルブックも掲載します。	2022/11/11	京都文学賞ウェブサイト	web	「芸術家×仕事」事例紹介	京都文学賞実行委員会
シタケ原木使った作品展	2022/11/15	大分合同新聞	新聞	協力展示紹介	大分合同新聞社
HAPS KYOTOがNEW OPEN。同時開催中のグループ展「航海のために」出展作品のオンライン販売もスタート	2022/11/17	OIL by 美術手帖	web	主催事業紹介	カルチュア・コンビニエンス・クラブ株式会社
【いたけサミット】開催 庭のほつれ なばに祈る	2022/11/19	全国きのこ新聞	新聞	協力展示紹介	(株)ブライアース
三枝愛「庭のほつれ なばに祈る」	2022/11/20	TOKYO ART BEAT	web	協力展示紹介	株式会社アートビート
航海のために【HAPS KYOTO / OIL by 美術手帖 キックオフ企画】	2022/11/21	京都で遊ぶART	web	主催事業紹介	株式会社エクザム
航海のために	2022/11/21	ウェブ版美術手帖	web	主催事業紹介	カルチュア・コンビニエンス・クラブ株式会社
GLOBAL ART TALK 036 荒木悠氏「再の差異、Reの話」	2022/11/22	京都芸術大学イベント情報	web	GA TALK 紹介	京都芸術大学
反響する身体と想像の器 西條茜 [Phantom Body]アートコートギャラリー 三木学評	2022/11/28	eTOKI	web	協スタジオ使用者参加イベント紹介力展示紹介	eTOKI
京都文学賞部門賞・東京の高3高野さん“憧れ”の京舞台 時代小説刊行	2022/11/29	京都新聞	新聞	「芸術家×仕事」事例紹介	京都新聞社
羽ばたけ、若手芸術家 京都市初、オンライン販売を支援 市在住など対象 / 京都	2022/11/30	毎日新聞	新聞	主催事業紹介	毎日新聞社
京の人 今日の人「芸術の街」伴走者に一般社団法人HAPS・事務局長 蔵原藍子さん(44)＝京都市上京区 / 京都	2022/12/4	毎日新聞	新聞	HAPS紹介、蔵原インタビュー	毎日新聞社
OPEN SITE 7 @ トーキョーアーツアンドスペース本郷	2022/12/5	ART iT	web	協力展示紹介	株式会社アートイット
OPEN SITE 7 Part 2	2022/12/10	ウェブ版美術手帖	web	協力展示紹介	カルチュア・コンビニエンス・クラブ株式会社
小林椋「亀はニエフスのイウウのように前足を右にのぼす」と	2022/12/10	TOKYO ART BEAT	web	協力展示紹介	株式会社アートビート
GLOBAL ART TALK 037 ライアン・タベット氏「スペース、ストーリー、シチュエーション」	2022/12/15	京都芸術大学イベント情報	web	GA TALK 紹介	大日本印刷株式会社

タイトル	掲載日	媒体	分類	掲載内容	発行元
GLOBAL TALK 038 エリック ボードレル氏「MAKE, DO, WITH」開催のお知らせ	2022/12/24	京都芸術大学 イベント情報	web	GA TALK 紹介	京都芸術大学
キュレーションを公平(フェア)に拡張する vol.1「私はなぜ古谷渉を選んだのか」	2023/12/27	art scape	web	受託事業紹介	大日本印刷株式会社
文化庁移転 京都から新潮流を	2023/1/1	京都新聞	新聞	HAPS 紹介	京都新聞社
キュレーションを公平(フェア)に拡張する vol.1「私はなぜ古谷渉を選んだのか」	2023/1/6	京都で遊ぼうART	web	受託事業紹介	株式会社エクサム
「キュレーションを公平(フェア)に拡張する vol.1「私はなぜ古谷渉を選んだのか」	2023/1/7	TOKYO ART BEAT	web	受託事業紹介	株式会社アートビート
キュレーションを公平(フェア)に拡張する vol.1「私はなぜ古谷渉を選んだのか」	2023/1/11	ウェブ版美術手帖	新聞	受託事業紹介	カルチュア・コンビニエンス・クラブ株式会社
展覧会「キュレーションを公平に拡張する」が2023年1月に(HAPS HOUSE)でスタート。vol.1キュレーターに保坂健二朗さん	2023/1/11	こここ	web	受託事業紹介	株式会社マガジンハウス
かつての被差別地域、光景様変わり 崇仁の木と記憶、次世代へ 植樹プロジェクト 山本さん	2023/1/12	毎日新聞	新聞	協力事業紹介	毎日新聞社
紙屋川の和紙作りたどる 北区 芸術家がフィールドワーク	2023/1/18	京都新聞	新聞	スタジオアーティスト紹介	京都新聞社
三枝愛「庭のほつれ なばに祈る」	2023/1/18	ウェブ版美術手帖	web	協力展示紹介	カルチュア・コンビニエンス・クラブ株式会社
三枝愛「庭のほつれ なばに祈る」	2023/1/18	TOKYO ART BEAT	web	協力展示紹介	株式会社アートビート
ザ・トライアングル 八幡亜樹：ベシュバルマクと呼ばないで //2022	2023/1/27	京都市京セラ美術館ウェブサイト	web	協力展示紹介	京都市京セラ美術館
私はなぜ古谷渉を選んだのか展 HAPS初の展覧会	2023/1/28	京都新聞	新聞	受託事業紹介	京都新聞社
絵画表現の多様性を楽しむ芸術祭。「うららか絵画祭」が東京・根津で開催へ	2023/1/30	ウェブ版美術手帖	web	協力展示紹介	カルチュア・コンビニエンス・クラブ株式会社
京都:Re-Search 2022 in 綾部	2023/2/2	KYOTOHOOP	web	スタジオ使用者出展紹介	京都:Re-Search 実行委員会
「うららか絵画祭」	2023/2/4	TOKYO ART BEAT	web	協力展示紹介	株式会社アートビート
八幡亜樹：ベシュバルマクと呼ばないで //2022 / 京都市京セラ美術館 ミュージアムガイド 362	2023/2/10	京都新聞	web	協力展示紹介	京都新聞社
ザ・トライアングル 「八幡亜樹：ベシュバルマクと呼ばないで //2022」	2023/2/14	ウェブ版美術手帖	web	協力展示紹介	カルチュア・コンビニエンス・クラブ株式会社
マリー・ローランサンから仲條正義名作展、うららか絵画祭まで。今週末に見たい展覧会ベスト8	2023/2/17	ウェブ版美術手帖	web	協力展示紹介	カルチュア・コンビニエンス・クラブ株式会社
小林椋展	2023/2/18	京都新聞	新聞	協力展示紹介	京都新聞社
千總ギャラリー ギャラリー 2 imperceptible portraits	2023/3/1	千總ギャラリーウェブサイト	web	協力展示紹介	株式会社千總
imperceptible portraits	2023/3/2	ARTISTS' FAIR KYOTO 2023		協力展示紹介	ARTISTS' FAIR KYOTO 実行委員会
imperceptible portraits	2023/3/2	TOKYO ART BEAT	web	協力展示紹介	株式会社アートビート
今週末見たい展覧会5選。ルーヴル展からダムタイプまで	2023/3/4	TOKYO ART BEAT	web	協力展示紹介	株式会社アートビート
小林椋: オブジェ「OBJECT」	2023/3/14	SUB-ROSA	web	スタジオ使用者紹介	株式会社ホーダウン
甲乙つけがたい。長谷川新 評「私はなぜ古谷渉を選んだのか」	2023/3/17	ウェブ版美術手帖	web	受託事業レビュー	カルチュア・コンビニエンス・クラブ株式会社
ヒスロム 活動報告展+アルミ鑄造イベント in 仙台	2023/3/24	まちりょく	web	協カイベント紹介	公益財団法人仙台市市民文化事業団
若手芸術家 生きる街へ アトリエや作品販売 自治体が支援	2023/3/31	朝日新聞	新聞	HAPS 紹介	朝日新聞社



PHOTO by KAORI YAMANE

Evaluation report of HAPS

Evaluation report of HAPS

Evaluation report of HAPS

Evaluation report of HAPS

* HAPS 事業評価調査報告

山田創平
(京都精華大学教授)

1: はじめに

HAPSでは2019年度まで毎年、大学と市民に対するアンケート調査(量的調査)を実施し、事業の効果評価を行ってきた。2020年度以降は新型コロナウイルス感染症の影響もあり、大

規模な量的調査の実施を控え、毎年質的な効果評価を行っている。ここに2022年度の質的効果評価の結果を報告する。

2: 調査目的

本調査の目的は以下の通りである。HAPSは非常に大きく言うと、芸術と地域との間に何らかの相互作用の可能性を見出し(あるいは芸術と地域の間には、これまでも常にすでに相互作用があったという現状を確認し)、さらにはその知見をふまえたうえで、芸術と地域との間に何らかの「効果」を及ぼそうとするプロジェクトと言える。その観点から昨年度は「京都における重要な芸術の担い手」である芸術系大学の学生に対してインタビュー調査を実施した。

本年は、昨年度調査の結果も踏まえ、「HAPSとかかわる地域の人々」に対してインタビュー調査を実施した。インタビュー項目は「自身と芸術とかかわり」や「HAPSを知ったきっかけ」「HAPSの活動に対する評価」などであった。「HAPSとかかわる地域の人々」の語りには、HAPSのこれまでの活動や、今後の方向性を考える上で重要な示唆が含まれていると考えられる。

3: 調査概要

インタビューは2023年2月に実施した。インタビュー協力者は5名であった。インタビュー実施にあたってはインタビューガイドを作成した。インタビュー調査は対面または遠隔で実施され、インタビュー協力者の

了解を得たうえで録音された。インタビュー実施に際しては、以下の項目について説明し、かつ書面を提示したうえで、了解を得た。

— インタビュー実施に際して了解を得た項目 —

1. 研究の目的と方法
2. 研究期間
3. 研究を実施する研究者(研究代表者)
4. インタビュー内容について(インタビューガイドの事前提示)
5. 研究への参加の任意性(説明を聞いた上での研究への不参加、インタビュー途中での研究への不参加が可能であること、謝礼に関する説明)
6. 個人情報の取り扱い(本研究以外にデータを用いないこと、研究終了後にデータを消去すること)
7. 研究終了後の対応・研究成果の公表について
8. 問い合わせ先

インタビューガイドに盛り込まれた質問項目は「属性」「地域社会の印象」「若手芸術家に対する印象」「今後の地域社会について」であった。

4: 分析方法

インタビューは録音され、文字起こしにより逐語録が作成された。その上で、QDAソフトウェア(Nvivo)に取り込み、グラウンデッド・セオリー・アプローチ、及びその修正版(木下、1999、2003、2005)の基本的な手続きにもとづいて切片化せずに概念化を

試みた。概念生成の過程で随時理論的メモを残し、概念間の関係を検討しカテゴリを生成した。さらに概念の生成と概念間の関係にこれ以上の解釈余地が考えにくくなった段階で分析終了と判断した(理論的飽和)。

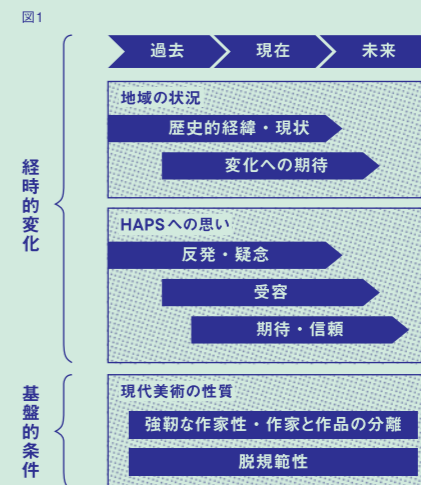
5: 分析結果

分析の結果、「HAPS」と「HAPSとかかわる地域の人々」との間の影響関係を説明し得る3カテゴリと7概念が抽出された。詳細は結果図として図1に

示す。以下では、カテゴリは【 】, カテゴリを構成する概念は< >、実際のインタビューテキストは「 」の中に斜体で記述する。

5-1: 結果図

図1について説明する。まず経時的に変化するカテゴリとして【地域の状況】と【HAPSへの思い】が存在する。この2つのカテゴリを構成する語りは、時間的な変化をふまえて語られる傾向が強いことから、経時変化のあるカテゴリとみることができる。そしてそれら2つのカテゴリを支える基盤的条件として【現代美術の性質】がある。このカテゴリは今回分析をしたテキスト群において、時間的観念からも、地域の状況からも影響を受けず、一貫して存在しているという意味で基盤的であり、今回の分析においても前提的な意味合いを帯びている。





5-2：ストーリーライン

以下でストーリーラインを示す。結果図で見たように、インタビュー結果からはまず経時的に変化するカテゴリー【地域の状況】を見出すことができた。「HAPSにかかわる地域の人々」は、それぞれの個人的な経歴とともに、地域とのかかわりの歴史をもっている。そこではそれぞれの多様なバックボーンをふまえて多様な語りを展開されるが、それらは大きく2つの概念として整理することができる。ひとつは＜歴史的経緯・現状＞に関する語りであり、もうひとつは＜変化への期待＞である。この2概念は、過去に関する語りにも、現在に関する語りにも、未来に関する語りにも表れるが、＜歴史的経緯・現状＞はどちらかと言えば過去に結び付けて語られるし、＜変化への期待＞は現在から未来への時間軸に重ねて語られる傾向がある。それはつまり、「HAPSにかかわる地域の人々」は＜歴史的経緯・現状＞をふまえて地域に対して＜変化への期待＞を持つが、その期待は、決して地域の＜歴史的経緯・現状＞を無視し、無かったことにするようなく＜変化への期待＞ではないということである。「HAPSにかかわる地域の人々」はその地域のもつ歴史的経緯（そこには社会的排除や差別をはじめとした様々な社会課題がふくまれる）や、地域の現実的状況（一筋縄ではいかない複雑な状況）をしっかりとふまえ、そのうえでそれらをポジティブな変化へと結び付けたいという期待がある。その期待は次のカテゴリー【HAPSへの思い】へと投影される。

【HAPSへの思い】は＜反発・疑念＞＜受容＞＜期待・信頼＞の3概念により構成される。先のカテゴリーと同様、ここでもこの3概念は過去に関する語りにも、現在に関する語りにも、未来に

関する語りにも表れる。そしてまた、ここでも先のカテゴリーと同様に＜反発・疑念＞はどちらかと言えば過去に結び付けて語られ、＜受容＞＜期待・信頼＞は現在から未来への時間軸に重ねて語られる傾向がある。この状況は、以下のように理解される。すなわち【HAPSにかかわる地域の人々】はHAPSに対して、基本的に、以前は＜反発・疑念＞を持っていたが、やがて信頼関係が構築されHAPSを＜受容＞するようになり、やがて＜期待・信頼＞をするようになる。しかしながら、そのプロセスは常に行きつ戻りつの試行錯誤の連続であり、決して直線的ではなく、現在もそのプロセスの途上にあるということである。

【現代美術の性質】は、上記2カテゴリー、5概念を支える基盤的条件である。ここでは＜強靱な作家性・作家と作品の分離＞＜脱規範性＞の2概念が見出せる。＜強靱な作家性・作家と作品の分離＞は、アートや芸術について考えるとき、一般的には「作品」がその主要な検討の対象となると考えられるが、今回の語りにおいては、「作品」ではなく「作家」への言及がほとんどを占めたために導き出された概念である。＜脱規範性＞は、いわゆる現代美術の作品性（とりわけ今回の分析においては作家性）のことだが、今回の調査・分析において、すべての前提となる通奏低音、基盤的条件となっていた。つまり、上記2カテゴリー、5概念のすべては、この現代美術の＜脱規範性＞があってはじめて語りえた現象である、ということになる。

詳細は以下において実際のインタビューデータを確認しつつ詳述する。

5-3：カテゴリーを構成する概念の詳細

●【地域の状況】カテゴリーを構成する概念は＜歴史的経緯・現状＞と＜変化への期待＞の2つである。これらの概念は、例えば以下のような語りに現れる。

＜歴史的経緯・現状＞に関する語り

「要するにこれまでの歴史をキチッと表に出しながら、やっぱりその問題解決に向けてしっかりとやっついていこうというスタンスなんで、中途半端な情報よりもっともっと深いものをしっかりと出していきたいというふうには思ってますね。」

「随分人口が流出してて、宿泊施設が増えたじゃないですか。だから一つの町内で、おしなべて人口、住んでる方が減ってる。（中略）例えば町内活動とか、本当にやりにくくなる。」

「子育ての世代の人とか、まあ学校なんかはね、特色ある学校運営されてるんで、ここで学ばせたいなあっていうような、親御さんが、じゃあここに住めるかっていうと、馬鹿馬鹿しい値段で買えない。」

「国の観光、観光立国を目指そうみたいな、そのインバウンドを急激に

増やしたじゃないですか。で、当初から私なんかはね、観光産業って、諸刃の剣やろうなと思ってて。（中略）蛇口キュッと閉めたらピタッと止まるじゃないですか。」

「そうそう。全然知らなくて急に時突然川の中にこんなものができて。みんなすごい何あれ、みたいな。（中略）こんなびっくりすることもあるんだね、プラスに捉えられる人って、やっぱりいろんな経験してきた、いろんな人と繋がって、いろんな柔軟な考えを持ち合わせてる人だと思うんですよね。でも、高齢の方とか、（中略）人との付き合い方、他所の地域の方とのつながりっていうのは、すごく歴史的にも困難だった時期があったと思うので、そうなったときに、受け入れがすごく難しい場面があると思うんです。」

＜変化への期待＞に関する語り

「それと京都の特性ですよ、学生の人口っていうのがすごく多いですし、大学が多いですし、それはやっぱり、どう地域としても取り込んでいくのか辺りはそれぞれ他の京都市内の被差別部落のまちづくりなんかもかつて関わってたんですけど、それぞれの部落にも、近くに大学があるんですよ。で、やっぱり被差別部落のまちづくりをしていくときに、大学なんかを巻き込んでやっついていかんと、やっついていけば、やっついていっていろいろの意味でいいですよ、みたいな、そんな投げかけはね、他の地域でもやってきたんですけど、そういう素材がありますね。」

「むしろここにどんどん人が集まってくる様な、そんなシステムを作ってやろうかなというふうにして。」

「まあ、でもやっぱり面白いことをやってる地域っていうのは人は集まりますよね。」

「で、私なんかは、HAPS がここで立ち上がるのを協力したりとか、地域が残っていくために活性化させていかねばならないとか、いろんな新しいものを取り入れていかねばならないとか、いろんな人と協働しないとこの地域が残れないよね、みたいな、そんな思いが強かったんで。」

「今ある地域だけの知識であったりとか知見であったりとか、っていう部分で、限界みたいなんもあってね。うん、やっぱり新しい発想とか、新しい見方とか、そういうものを絶えず取り込んでいかないと、地域が、僕はもう地域の生き残りっていうふうな視点でいつも考えてましたよね。」

「そこをベースに考えると、それはあの、住みたい人が来てもらったらいいんですけど、やっぱり自治会活動に関わるとか、参加してもらおうとか、町内会に加入することが当然やと思う人、に来てもらえたら非常にありがたいとは思ってるんですけどね。」

●【HAPSへの思い】カテゴリーを構成する概念は＜反発・疑念＞＜受容＞＜期待・信頼＞の3つである。これらの概念は、例えば以下のような語りに現れる。

＜反発・疑念＞に関する語り

「町づくりに関わっている人たちが、なんかこう、どういう人たちなんだろうって。今からここで何が行われるんだろうっていうので、不安を持ちながら向き合っていたという感覚はすごく、覚えていますね。（中略）不信感じゃないけど、厳しい意見を言ったこともあったりはしてたんですけど。（中略）探り探りだったような気がしますね、その時は。」

「公園で行われた、ね、表現とか、っていうところが、最初はもうなんじゃこりゃみたいな感じで。」

「私まだこれをどういう風に解釈しているのかわからないみたいな、すごく悩みなながら見るみたいな感覚でした最初は。」

「私、（HAPSのスタッフが地域の歴史を）どこまで話を知ってるかもわ

からず、この地域が差別されてきた現状についても、そんなにわかってないまま、なんか地域とアートをつなげたいのっていうのはどういうことなんやみたいな感じで、ものすごい猛反発してしまっ。（中略）要はなんか新参者がこの歴史のことに本当に入ってるのか、みたいな、まあ先にね、この地域を知っていたがゆえの、奢りもあって言ってしまったんですけど、その後ももう本当ずっと思っててくれるんですよ、HAPSさん。（中略）本気でやっぱりアートと地域を結びつけようとしてるんだな、っていう姿をみてきたこの5年間だったなあっていうふうにして。」

「植民地支配とかまあそうだったわけだと思うんですけど、だから、文化芸術に、私たちが乗っかっていくっていうことが、今HAPSさんとかを

通じて見えている個々人の人と繋がるってことはものすごく意義を感じるんだけど、政策的に打ち出される、例えば市長なんかという文化芸術で町の活性化とかいうのってというのは、ひょっとして騙されるんじゃないかっていう、なんか警戒感もありまして。」

＜受容＞に関する語り

「(アートは様々なことを) 自由にやるんだなっていう感覚はあります。それが好き嫌いかっていうのはもちろん自分の感覚だけど、それが自由に行われる環境ってということには、すごく身近になります。」

「アートとか、いろんな手法で人をつなげるやり方をしてくれるのであれば、それはものすごく楽しみだったりとかするんですが、(中略) 地域的に、私が、受け入れが下手くそやと思ってるんです。」

「すごく新しい発想を求めているのに、新しい発想を受け入れるってところが苦手だったりするから、この先どうなっていくのかなと思いますね。」

「だから本来は、すごく住民さんとかって言うけど、まちづくりの活動に参加してみるって言ったらほぼほぼ他の地域から来てたりとかしてるわけで、それをみんなが本当に住民さんも受け入れて参加できたらベストなんだけれども、住民さんが主体ということにはあんまりならない。」

「だからその、ね、よく言ってるのは、薬物依存症の人だったりとか、障害のある人たちだったりとか、で、私はいろんな表現をしている人たちも、あのう、何ていうかな、その、多文化っていうものの中に含まれてると思っ

＜期待・信頼＞に関する語り

「いや私すごいと思いますよ、(中略) (HAPSの) 今に至るまでの、人間関係の広がり方とか、信頼のされ方とか、っていうことが、なんか私はすごいなって思います。」

「なんかそれね、いつも娘と言うんですけど、やっぱE9ができたことによって、その、東西の、行き来をする、なんかちょっと若い人とか、個人的な人をよく見るようになった気がします。面白いと思って。」

「従前の同和地区にあった施設とはまた違ったカラーの (HAPSの) 施設が入ってくるということは、これはもしかしたら新しい展開ができるんじゃないかと、僕ら自身が。」

「あのう、正直言って、移転、HAPSさんが入られるっていうまでは、HAPSの活動とか、HAPS自体も僕自身認識がなかったですね。(中略) で、まあ HAPSさんについて色々調べたりして。まああの、いろんな意味で地域と共有しながらいろんなことやってはるんやなあと。」

「なんだろう、世間体みたいなのところとか、うん、なんていうんでしょうね、弱った自分の姿を人様に見られたくないっていう、うーん、すごい、京都だなんてみんなできよく言ってるんですけど。(中略) 人間一人ひとり考えたときに、そこまでは教えてないというか。」

「なんだったんだらうねみたいな場面は、まだ数少ないですけど、別の HAPS さんと関係ない事業で、学生さんの紹介を受けてやった時に、あれ最後どうなったんだらうね、っていう、あの子ど行っただけですかって言ったら、もうあの子は違うところにあの、違うことに関心が向いて、なんか違うことやってるわっていう感じの情報が聞こえたりとか。うん、だからなんか自分たちの中では完結してるけど、巻き込んだ人たちも、

ないかっていう、なんか警戒感もありまして。」

＜脱規範性＞に関する語り

「(HAPSのスタッフが) そこにボランティアというか、お手伝いできたださってたんですよ。ずっと。そういう、なんだろう、関わりの中から顔の見える関係作りとかができて、自然に職員にとっても利用者さんにとっ

ても、いる存在みたいになっていったんだと思うんですよ。」

「だからそれは、この街が今変わっていく、きれいになっていく中で、いやまあ捨てられないっていうか、汚いと思われてるものの中にも、こんなに価値がある、昔のものっていうのを、若い人がものすごく目を輝かせながら、収集してくださるっていうのは、次の世代に継承できる何かが残ってるんだなというふうなことに気づかせてもらったっていうのは、うん、これはこの地域に長く住んでる人の、感性を超えたやっぱり新しい発想

だったと思うんで、これはまあ今の街の変化にとって重要な、なんていうんでしょうね、触媒になってくれていると思いますね。」

「若い人たちの流入を期待しているっていう強い思いがある反面、やっぱりそこへのジェラシーというのも同時にあるというのを、まあ、まだまだ経験が少ないんですよ。入ってきて一緒にやってるっていう経験が少ないので、乗り越えきれないというところがありますね。」

＜強靱な作家性・作家と作品の分離＞に関する語り

「あ、あ、決して何かそのあそこにある問題を、避けて通るのではなくて、やっぱりそこからプラスの発信っていうか、そういうことはできるんですよ。(中略) だから僕なんかは、いわゆる差別問題を解決するために、どっちかいうと、ええ社会学的なアプローチっていうか、実際にその、地域に入っ

て、いろんな問題を解決しながらまちづくりをしているんですけど、やっぱり僕らの境界を超えたっていうか、違うやっぱり角度からのアプローチっていうのがすごいやっぱり大きかったですねえ。」

「最初、デイサービスのご利用者さんに、和紙に水彩絵の具で、なんか大きな刷毛みたいなので色を塗ってもらったんですよ。で、その時に、あ、この人でできないだろうって勝手にこっちは思い込んでた方がいて、あ、持たせてみたらできるんだとか、」

「で、あの、決めて何かそのあそこにある問題を、避けて通るのではなくて、やっぱりそこからプラスの発信っていうか、そういうことはできるんですよ。(中略) だから僕なんかは、いわゆる差別問題を解決するために、どっちかいうと、ええ社会学的なアプローチっていうか、実際にその、地域に入っ

て、いろんな問題を解決しながらまちづくりをしているんですけど、やっぱり僕らの境界を超えたっていうか、違うやっぱり角度からのアプローチっていうのがすごいやっぱり大きかったですねえ。」

「最初、デイサービスのご利用者さんに、和紙に水彩絵の具で、なんか大きな刷毛みたいなので色を塗ってもらったんですよ。で、その時に、あ、この人でできないだろうって勝手にこっちは思い込んでた方がいて、あ、持たせてみたらできるんだとか、」

「で、あの、決めて何かそのあそこにある問題を、避けて通るのではなくて、やっぱりそこからプラスの発信っていうか、そういうことはできるんですよ。(中略) だから僕なんかは、いわゆる差別問題を解決するために、どっちかいうと、ええ社会学的なアプローチっていうか、実際にその、地域に入っ

て、いろんな問題を解決しながらまちづくりをしているんですけど、やっぱり僕らの境界を超えたっていうか、違うやっぱり角度からのアプローチっていうのがすごいやっぱり大きかったですねえ。」

「で、あの、決めて何かそのあそこにある問題を、避けて通るのではなくて、やっぱりそこからプラスの発信っていうか、そういうことはできるんですよ。(中略) だから僕なんかは、いわゆる差別問題を解決するために、どっちかいうと、ええ社会学的なアプローチっていうか、実際にその、地域に入っ

＜強靱な作家性・作家と作品の分離＞に関する語り

「芸術は遠いんだけど、アーティストの方はすごく福祉的な、私たちが思っている福祉的な、要素をすごく兼ね備えてらっしゃる方が多いんだ、共通するところがすごくあるんだなっていうふうにだんだん、感覚としては変わってきてるんです、自分の中で。」

「(アーティストの) やっぱり人に寄り添う姿勢っていうところがすごく共感できていて。」

「なんかこうアーティストの方が、本当に時間をかけて、ヒアリングをし

＜脱規範性＞

「で、あの、決めて何かそのあそこにある問題を、避けて通るのではなくて、やっぱりそこからプラスの発信っていうか、そういうことはできるんですよ。(中略) だから僕なんかは、いわゆる差別問題を解決するために、どっちかいうと、ええ社会学的なアプローチっていうか、実際にその、地域に入っ

て、いろんな問題を解決しながらまちづくりをしているんですけど、やっぱり僕らの境界を超えたっていうか、違うやっぱり角度からのアプローチっていうのがすごいやっぱり大きかったですねえ。」

「最初、デイサービスのご利用者さんに、和紙に水彩絵の具で、なんか大きな刷毛みたいなので色を塗ってもらったんですよ。で、その時に、あ、この人でできないだろうって勝手にこっちは思い込んでた方がいて、あ、持たせてみたらできるんだとか、」

「で、あの、決めて何かそのあそこにある問題を、避けて通るのではなくて、やっぱりそこからプラスの発信っていうか、そういうことはできるんですよ。(中略) だから僕なんかは、いわゆる差別問題を解決するために、どっちかいうと、ええ社会学的なアプローチっていうか、実際にその、地域に入っ

6：おわりに

今回のインタビュー調査では「HAPSとかかわる地域の人々」が日々感じ、考えていることの一部が示された。「HAPSとかかわる地域の人々」は、それぞれがそれぞれのやり方で、自らがいまいる地域、自らがいま働いている地域と深くかかわってきた。そのかわりの中で、やがて HAPS とも関わるようになり、その結果、「自らと地域との関係」「自らと HAPS との関係」において、さらに様々な事柄を思い、葛藤、逡巡し、さらには HAPS への期待を感じるようになった。HAPS がテーマとして掲げる「若者」や「現代美術」といったキーワードは、地域やそこに住む人々に葛藤や戸惑いと同時に、変化への期待や希望をもたらす可能性もある。それはあくまでも「可能性」だが、今回のインタビュー調査からは、その「可能性」がいかにステークホルダー (関係者) を翻弄し、強く心を揺るがせ、動かしたのかが伺われた。そのプロセスを経て、多くのステークホルダーがやがて、徐々に「地に足のついた」関係を構築するに至る。今回の

地域性をリサーチしたり、(中略) 地域を回られたりしているのを見ると、あ、なんか (福祉の現場と) 同じだなあっていうか、本来はこうやって時間をかけなきゃ、私たちもいけないんだなって、」

「それって (アーティストが) すごい信頼を得られたんだなって。なんか、芸術家の方が、一回は集まると思うんです、作品作りっていうことで。ただ、継続してくださるっていうことはやっぱりアーティストさんに魅力があって、っていうところ、だと思います。」

＜期待・信頼＞に関する語り

「で、あの、決めて何かそのあそこにある問題を、避けて通るのではなくて、やっぱりそこからプラスの発信っていうか、そういうことはできるんですよ。(中略) だから僕なんかは、いわゆる差別問題を解決するために、どっちかいうと、ええ社会学的なアプローチっていうか、実際にその、地域に入っ

て、いろんな問題を解決しながらまちづくりをしているんですけど、やっぱり僕らの境界を超えたっていうか、違うやっぱり角度からのアプローチっていうのがすごいやっぱり大きかったですねえ。」

「最初、デイサービスのご利用者さんに、和紙に水彩絵の具で、なんか大きな刷毛みたいなので色を塗ってもらったんですよ。で、その時に、あ、この人でできないだろうって勝手にこっちは思い込んでた方がいて、あ、持たせてみたらできるんだとか、」

「で、あの、決めて何かそのあそこにある問題を、避けて通るのではなくて、やっぱりそこからプラスの発信っていうか、そういうことはできるんですよ。(中略) だから僕なんかは、いわゆる差別問題を解決するために、どっちかいうと、ええ社会学的なアプローチっていうか、実際にその、地域に入っ

＜脱規範性＞

今回のインタビュー調査では「HAPSとかかわる地域の人々」が日々感じ、考えていることの一部が示された。「HAPSとかかわる地域の人々」は、それぞれがそれぞれのやり方で、自らがいまいる地域、自らがいま働いている地域と深くかかわってきた。そのかわりの中で、やがて HAPS とも関わるようになり、その結果、「自らと地域との関係」「自らと HAPS との関係」において、さらに様々な事柄を思い、葛藤、逡巡し、さらには HAPS への期待を感じるようになった。HAPS がテーマとして掲げる「若者」や「現代美術」といったキーワードは、地域やそこに住む人々に葛藤や戸惑いと同時に、変化への期待や希望をもたらす可能性もある。それはあくまでも「可能性」だが、今回のインタビュー調査からは、その「可能性」がいかにステークホルダー (関係者) を翻弄し、強く心を揺るがせ、動かしたのかが伺われた。そのプロセスを経て、多くのステークホルダーがやがて、徐々に「地に足のついた」関係を構築するに至る。今回の

インタビュー調査で明らかになったのは、まさにそのプロセスの持つ「強度」であったと言えるだろう。地域とアートとの関係が語られるようになり久しいが、HAPS の事例は、その試みが HAPS という団体の持続力と熱量によって、地域社会との関係を「強度」をもって構築し得た、稀有な事例であることは、もはや疑う余地がない。昨年、一昨年も述べたことだが、その意味でも、HAPS のような取り組みのもつ美術史的な意味、現在の社会における価値については、いずれしっかりと考察されるべきであるし、その意義は大きいだろうと考える。

今回、インタビュー調査に協力を頂いた 5 名の市民の皆さんに改めて御礼申し上げます。また調査にあたっては HAPS 事務局、特に沢田朔さんに諸事助けて頂いた。ここに深く感謝の意を表するものである。

以上

—

HAPS 実行委員会 (敬称略)

実行委員長

遠藤水城 (キュレーター)

副実行委員長

佐藤知久 (京都市立芸術大学芸術資源研究センター専任研究員／教授)

井上えり子 (京都女子大学家政学部生活造形学科教授)

加須屋明子 (京都市立芸術大学美術学部教授)

後藤直 (特定非営利活動法人くらしネット 21 代表／佛教大学教育学部教育学科教授)

後藤創平 (京都新聞編集局運動部記者)

後藤結美子 (京都市美術館学芸課学芸員)

小林正典 (京都市東山区役所地域力推進室まちづくり推進課長)

菅谷幸弘 (六原自治連合会事務局長)

砂川敬 (京都市文化市民局文化芸術都市推進室室長)

竹内万里子 (京都芸術大学芸術学部美術工芸学科教授)

松本泰章 (嵯峨美術大学芸術学部造形学科教授)

安河内宏法 (京都芸術センタープログラムディレクター)

矢津吉隆 (美術家／kumagusuku 代表)

山田創平 (京都精華大学人文学部教授)

—

一般社団法人 HAPS

代表理事：遠藤水城

理事：藏原藍子、四元秀和

監事：植木克明

事務局：石井絢子、岡永遠、沢田朔

—

Social Work / Art Conference (SW/AC)

ディレクター：奥山理子

アシスタントコーディネーター：小泉朝未、東美沙季



後列左から遠藤水城、石井絢子、藏原藍子、沢田朔、東美沙季、岡永遠

2022 年度文化庁 文化芸術創造拠点形成事業

京都市「若手芸術家の居住・制作・発表の場づくり事業」

HAPS 事業報告書 2022 年度

発行日	2023 年 3 月 31 日
発行元	一般社団法人 HAPS
企画	一般社団法人 HAPS 事務局
編集	松永大地
デザイン	マエダユウキ
イラストレーション	マエダユウキ
撮影	小檜山貴裕、中谷利明、成田舞、前谷開、守屋友樹、山根香
印刷	株式会社グラフィック
協力	アトリエみつしま、京都市産業観光局観光 MICE 推進室、京都市立楽只児童館、 崇仁すくすくセンター実行委員会、高瀬川モニタリング部、高野知宙、 東九条アンサンブル、東九条 空の下写真展実行委員会、 保坂健二郎、八幡亜樹、山田創平、やんそる、リュージェン、 「#わたしが好きになる人は / #The_people_I_love_are」、5minutes films

一般社団法人 HAPS

〒605-0841 京都市東山区大和太路通五条上る山崎町 339
339 Yamazaki-cho, Higashiyama-ku, Kyoto 605-0841, JAPAN
E-MAIL info@haps-kyoto.com
TEL 075 525 7525
FAX 075 525 7522
<http://haps-kyoto.com>

HAPS

